新和歌類句集三

第四句
五代集
後加至和

特別
イ4
3163
22(3)

貴
14
3163
22(3)

新和歌類句集

ち

新千 覇旗
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

新拾 雜上
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

新千 神
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

新千 慶賀
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

新拾 賀
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

新拾 夏
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

新拾 賀
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

風賀
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

新拾 賀
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

新千 慶賀
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
ちはやぶる神のみかきの玉垣の
世々の末まで

風賀
わすれてあふ　ちとせのとをとかたらひあらん　こてひとたびたちとまる　康資王母

新千慶賀
とりのみ　ちとせのはのなとせをそなへてけふとしに　菅原為忠

新拾賀
忘れらや　ちとせのあとの花のなにとかつまてとまれんとすん　菅原為忠

新拾物下
いくかへて　ちとせのはかあひあらん色もかはらぬ為忠　大江匡房

新千慶賀
笑てかへ　ちとせのはのりまの月すてに笑へる色人　菅原為忠

新後古賀
わすれなて　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　大江為忠

風賀
あすをまつ　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　宮内卿

新後古物上
みるかな　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　萩谷風物名

新千物上
いくとせか　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　源為朝

新拾恋三
もしろれ　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　法印定円

新拾恋下
花をみれ　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　法印定円

新後古雜中
わすれて　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　等持院贈左大臣

新後古恋四
あれとも　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　法印定円

新後古雜下
ふるとも　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　法印定円

風神
神のかへ　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　藤原為忠

新後古春下
花をこれ　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　藤原為忠

風神
山けて　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　藤原為忠

新後古春
をとりも　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　皇太后宮大夫俊成

新千雜上
ふるとも　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　常陸乳母

新後拾春下
さて花　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　大江頼重

新拾恋下
ふるとも　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　入道二品親王道

新千春下
けて　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　俊成卿女

新後古恋四
りて　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　法印慶暁

新後拾春下
山けて　ちとせのけふをあとにとゆく末をひさしき　平宗宣朝臣

新拾 五一
新千 春下
新後拾 春下
新拾 春上
新後古 春
新後古 春
風
冬
新拾 雜春
新後拾 冬
風
風 雜上
新拾 春下

身をへて
をれはなる
山さくら
見みわた
はるとも
はるとも
ちりぬれを
ちりぬるを
本のもとに
みれとあか
面のちり
見みわた
をれはなる

ちりぬるかとみるまでに 深養父
ちるやはるの山たにかけて行く山ふかき花あるらんと 兼盛王
ちりていくそ物とは知らぬ春の花ちるさ花ちる春 橘大納言公忠
見わたすとなくいつくとも雲はなきかと春の日の 仁宗院御製
はるとも見えぬ春の神やとしをへぬるを 仁宗院宸筆和歌
ちりぬれを春の山ちりぬるを 兼盛王
ちりしく波に春の山風成きり 曽禰好忠
ちりしく波に春の山風成きり 曽禰好忠
ちりしく波に春の山風成きり 曽禰好忠

新後拾 雅下
いまはへを
神のよる八坂とかよる氏の流とかな
寄水祈恋 前大政大臣

新千 夏
神のまに
ちはやぶる
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
入道前太政大臣

新続拾 春下
せめてはな
ちはやぶるたにしたかけの桜ちるまで
前大政大臣

新拾 夏
ちるまでも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
前大政大臣

新千 雅下
九重や
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
行醍醐院御製

新後拾 神
ちはやぶる
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
左兵衛督

風 秋
はつしも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
前大納言

新続拾 神
ちはやぶる
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
前大納言

新千 夏
いまはへを
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
源邦長朝臣

新千 夏
世をこめて
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
弾正大弼 親王

新後拾 恋五
わすれぬる
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
入道前太政大臣

新後拾 神
ちはやぶる
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
前大納言家

風 雅下
九重に
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
冷泉前太政大臣

新後拾 賀
すゑとをき
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
後鳥羽院御製

新後拾 賀
けふこそは
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
前大納言家

新後拾 賀
けふこそは
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
源忠氏

新拾 神
けふこそは
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
前大納言家

新千 慶賀
きこしめす
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
源忠氏

新後拾 春上
はるかすみ
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
前大納言家

新後拾 夏
はるかすみ
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
法住寺殿

新千 神
一夜さ
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
仁和寺宮御製

新拾 雅下
ちはやぶる
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
前大納言

新拾 賀
時はなる
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
後鳥羽院御製

新拾 賀
ちはやぶる
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
ちはやぶるとはいはしとかなしとも
後鳥羽院御製

新後古 春上
ふかくより
ちあるくひをたづねやれば
みねのやまの
新千 恋下
みねのやまの
ちあるかぜやうめのはなをいそがしくなる
鄭成成
法下長舞
新拾 雜下
やまし山
ちあるるまれにかくるるたにのうぐひす
旧大臣
風 恋上
なれぬる
ちゆきもまだきえぬたけのはの
侯人百首
新千 恋下
花ぞこな
ちてもちるなるこのいはやまのまつかぜ
清吉朝臣
風 恋下
ちてなりぬるかぜのうちのはるのはなのあるかな
好光内親王
風 恋
あかつきの
ちてあるかぎりのさくらのはなをみるとも
保公院冬
風 恋下
ちてはてぬ
ちてはてぬ
ちてはてぬ

風
忘二
風
物上

新千
忘立

新千
忘二

新後古
春秋

新拾
忘三

新千
忘四

新後古
神

新拾
忘三

新拾
忘三

新千
忘三

身を変じ　ちきりかいろくみねをくあ中めちうあ海　安芳院四條
さそれわれ　ちきりとハ物れるれらくさしかれ意れるさ　花光院摂政家
いつくを　ちきりとハまてやムれ井ひもとゝもゝく行くれて　法皇御製
むすひまん　ちきりとハまてすトひをめとけてくやゝ別るれたん　水福門院
一枝をに　ちきりとになりてせくれ物れとれを中とうあ　花園院御製
うたてうあ　ちきりときくうとれまとれとの系式に物り　後光明天皇
うたてなう　ちきりとゝ中れ物てあくかひくをなりつ　源孝朝
わきかあ　ちきりとむすふいくう水たのてとれ行の浦ま　信実朝臣
言にふて　ちきりとゝ者とを松川れ行の春をれさくあ　曼荼羅寺大僧都
ゝれをあ　ちきりとけうとれ人をハいあくいくうの袖
ありしれ　ちきりとよせて美ゝうなひ秋をくうあ海と　進士頼重
いあうんや　ちきりとをにとけかゝ系れひとの春れたん　源氏光

新千
忘三

新後古
忘三

新拾
忘五

新拾
忘三

新拾
忘三

新後古
忘四

新拾
物上

新拾
忘三

新拾
忘三

新拾
忘四

新拾
忘二

新後古
忘四

新千
忘三

ひとしい苔　ちきりとれてうきさうをくを人をハいあくいくうの袖　菩提院
新とれ　ちきりとれもうあうをくあうひくまてうれ秋うく九　法印定覚
新みひく　ちきりとなりやうたのうれわうれ行の　中院通茂
いたくうれ　ちきりとなりやうたのうれわうれ行の　日野資朝
姫のうあ　ちきりとなうれけうれるとれ井にみしをうの人　芬陀利院
さうくあ　ちきりとう秋と織女れうくゝ結まやうあん　日野豊房
いたくうれ　ちきりとうくれをれつくくを人をれひまゝ結　法印浄弁
わきかあ　ちきりとれ程ハやくう月れほうにつあて不意　後宇多院
かりハ出う　ちきりとれ程しみうゝ秋れ玉れ枝は美ハうれ　前内大臣
なれ世れ　ちきりとれ程ゝうあ分ふ意ゝあうり何うあ方　橘遠村
うくくん　ちきりとれ程もうあ玉れをうえれ橋ようけて意つ　前大僧正
を成法ゝ　ちきりとれ来しつあゝしるとうたうあ公なり前ん　日野俊光

風
忘立
新後古
久
新拾秋
雜秋
新後古
雜下
新千
神
新拾
忘一
新後古
忘三
新拾秋
忘四
新拾
忘四
新拾秋
雜下
新後古
雜上
新拾
雜上

海ふかき　ちさとをかよわるれは世をうしほの　儀安門院
うしろより　ちきりをかはすふるさとにとまる所哉　二条院讃岐　聖方
さそはれて　ちきりまもるは波ふりにしかはやをかを　信二条院讃岐
うらなみの　ちきりをかはすとやかはるん波いとくあはの門の　はるの海井
非代より　ちきりをかはすとやむあはしすれる袖をとるん　前大納言為家
うれはや　ちきりをかはさ海はなをなをかはるをはとこやいとん　前大納言為
さそはさた　ちきりて夜はまと又海はあはまるとあはかはを袖をとて　前大納言為
しをしむは　ちきりは波もあはあるはるはるすはるはまの山　信二位為
ちるはて　ちきりをまてはかるとをあはるはるすはるはるに　信大納言
みるれてと　ちきりはおとはいとくあはは海の川といはるはを　為家仲文
さそはれは　ちきりはおとはやはは海はいはみをはやはるは　信中納言
網代の　ちきりをはるはるはる

新千 恋三
わすれかね
ちきりしはかなし
水福門院

風 恋四
さそはれし
ちきりしはかなし
西園寺実氏

新拾 冬
すまうれ
ちきりしはかなし
信濃

新千 物下
おもふ
ちかまうれて
藤原為氏

新拾 物下
いたづらに
ちかの浦
源親房

新千 冬
くれる井に
ちかの本風
[illegible]

百六十一首

新拾 夏
ひとり
ぬるかぎり
伊勢

新後拾 恋一
ぬるかぎり
[illegible]

新後拾 恋三
わすれ
[illegible]

新後拾 恋五
ひとり
源寺[illegible]

新千 恋二
いふ
[illegible]

新後拾 物上
あま人
[illegible]

新千 雜下
袖
[illegible]

新後拾 恋三
ひとり
[illegible]

新拾 雜
くれる井に
[illegible]

風 恋四
いかで
[illegible]

新拾 春
ぬるかぎり
[illegible]

風雅

新後拾 物下

新千 釋

風 玄三

かりのく　ぬまの花ぬはなえてみくさうゑし水の青葉哉　仁山法師

神ゐぬ　ぬさとちるもみぢの系ゆれたちもとゞえて神やはらぬ　花園左大臣

神ゐぬや　ぬさとてさけて神の宮ぬつとれて松なるみぎゆ　法華寺関白

かさ山　ぬし山ぬ神とともにうゑしたゆれとゞ　紀伊院前大臣

十五首

新千 玄二

新拾 冬

新千 玄二

新拾 玄二

新拾 物上

新千 玄二

新千 雜上

新千 雜中

新千 釋

新拾 物上

を

をうゑしみぬ成ぬしみて恋やまるほ　内閣卿

をうゑぬ成ぬ稲なわ稲とも続ぬ山のうけよりかり　常磐右兵衛

をうゑぬ子のけいわれとへうつ中ハみうゑひは　九条前内大臣

をうゑぬ続のうそをうゑ行て新ゑ稲ゑるゑれ　持明院入道前内大臣

をうて山の月ハみし行ひ屋ゑうに成行ゆり　三条道前内大臣

をハうて山ちとわうハ行ゑ屋ゑ成ぬ月　後二条院御製

をにれうゑて成年月ゑちあハ人ゑ成ゆり　伏見院御製

をとうゑ成の玉ゑ屋ゑ成ゆゑ成ぬ成ゆゑ成　内閣卿

をうゑ成の下ゑハ玉のゆゑ尽ゑ成ゆひと成　桜井宰相 資朝

をとハうゑ成ゑ山ゑ成ゆ夕ゑ成ぬ　前大納言為世

をうゑ成ゑ稲ゑ成ゆうゑうゑ成ぬ玉井宋　桜井宰相 資朝

新後拾 雅下
をとこうちまてみえわたれはすまとうらにつりする海の
雅経卿

新拾 春上
をとこ舟まうりわたるやとまりをとこ山
前大僧正慈円

新千 夏
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
平氏村

新拾 雅上
山ちかしのさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
権中納言雅

風 春上
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
常盤井殿大臣

新拾 冬
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
院御製

風 雅上
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
左京大夫藤

新拾 雅上
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
後鳥羽院

新拾 冬
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
前内大臣

新後拾 雅秋
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
前内大臣

新後拾 恋二
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
後鳥羽院

新後拾 恋一
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
藤原定家

新後拾 恋三
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
前大僧正慈円

新後撰 恋二
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
平氏村

新後拾 秋下
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
権中納言雅

新千 雅下
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
源頼政

新秋 夏
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
従二位隆博

新後拾 冬
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
前大僧正慈円

新後撰 雅上
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
権大納言

新後拾 雅中
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
源和氏

新千 冬
をとこ山のさわ千鳥なくなるなかなかとをしをとこ
源俊氏

新拾神
しらぬひ
をとめ
新拾物上
あすか風
風冬
あすかの
新後拾物下
ゆふ
新後拾雜中
ゆふ
風五
ゆふ
新拾冬
ゆふ
新拾雜上
みつ
新拾冬
ゆふ
新拾雜上
ゆふ
新後拾雜上
ゆふ
風秋中
ゆふ

をとめ乙女の袖ふるまで昔物語りの神代にかな
をとめ乙女の袖ふるまで昔物語りの神代にかな　法寺國師
をとめ乙女の袖ふるまで昔物語りの神代にかな　法寺國師有契
をとめ乙女の袖ふるまで昔物語りの神代にかな　伏見院御

新後拾 公ヘ
みつのくされ
をくにもちるくるしかりけるそうひきすをていけう特人 権中納言経家
新千 冬ヘ
くるれる
をくれやうていたのしたに紅みし葉のむすひうる 入道二条前太政大臣
風 旅
いそのもれ
をくれるやまもとふる秋しも見に都より四方行雁 法三位行能
新後拾 旅
系神の
をくれるやまのかやしもるくるわすれて旅の鈴ものさ 参議兼氏卿 参議為氏卿
新後拾 恋五
くれる
をくれ
をくれるのこしのこしのこいやて柏さ 兼大納言実
新千 恋四
くれる
をくれるのかり枕ものむすへいりふる秋 六条内大臣
新後拾 旅下
水くれる
をくれ菅原の風は衣うりのひこてうすり 信三位行意
新後拾 旅下
くれる
をくれてて山田のいなかの風はくく 藤行房卿
新後拾 恋上
水くれる
をくれてて吹ていしてうすれ物ものうる 兼宗卿
風 冬
なくれる
をくれ柳ハ枝さうひて雪もたれてうもけき 章義院
風 恋中
雪のくる
をくれ柳のてりたにのとてすさ雨美れ夕風 四条寺前大納言女
新後拾
系うる
をくれけ度の姫うるにはてはけ 源之正

新後拾 恋上
ものくれる
新後拾 羇
をくれ
風 恋ヘ
ものくれる
新後拾 神
をくれ
新千 恋五
ことれ葉を
新後拾 雜中
ものくれる
風 恋下
をくれ
風 夏
をくれ
新後拾 恋五
人のくる
新後拾 恋ヘ
をくれ
新後拾 雜中
わすれより
新後拾 恋三
をくれ

をくれ湊の源のくれ物きすて出つる月のの 素暹法師
をくれ
をくれ
をくれ

新後古 春上
本すゑのハ
をうゑんとりとまつみそて
ちとせ
をすゑ
をすゑ
をすゑ

新拾遺一　作者未詳　道祖神

新千又　作者未詳　菅原孝標

新千雜下　ひさかたの　大納言朝光

新千雜上　あさちふの　葉室雅孝

新拾雜恋　物ちらき　法性寺入道前関白

新後拾雜上　わさちふの　藤原為氏

新千恋四　わさちふの　藤原為氏

新拾冬　ふしたらの　平親宣女

新千雜中　みちたれる　菅原為長

新千雜上　をちかたの　中納言為世

新拾夏　ぬけてとう　藤原為氏

新千雜上　たつの雨の　大納言師資

新千神　いく雨を　藤原為氏

風雜下　ふるかわの　藤原為氏

新拾雜下　河ぬしの　藤原為氏

風雜下　きしたかき　藤原為氏

新千春傷　さくらの　藤原為氏

風雜下　物ちらし　藤原為氏

新後拾雜下　ちりぬれた　藤原為氏

新千雜下　ゆくよ　藤原為氏

新後拾雜下　ゆふ雨の　藤原為氏

新後拾雜下　つれ雨の　藤原為氏

新拾恋二　物ちらし　藤原為氏

新後拾秋上　わさちふの　藤原為氏

新拾夏　有あけの月　をやしろ　皇太后宮大夫俊成女　法眼行尊

風雜中　わすれ草　をやまだ　をやまだ　法眼行尊

新拾恋一　ながめに　をきつかて　をきつかて　太上天皇

新拾恋一　ながとと　をきつ　をきつ　法眼行經

新後拾恋一　ながとと　をきつ　をきつ　法印定為

風恋一　ながれる　をきつ　をきつ　用良女

新後拾恋一　ながとを　をきつ　をきつ　信実朝臣

新拾恋一　ながるゝや　をきつ　をきつ　実国卿女

新拾夏　ながめ　をきつ　をきつ　順徳院御製

新千恋四　風　をやく　をきつ　をきつ　進士高教

新千夏　風の音　をきつ　をきつ　法眼行阿

風雜中　ちりぬる　をきつ　をきつ　権僧正慶運

新後拾物上　如けの　をきつ　をきつ　権僧都義春

新後拾雜上　如けの月　をきつ　をきつ　行就法師

風冬　草の葉　をきつ　をきつ　三条太政大臣

新拾物　月に　をきつ　をきつ　太政大臣

新千冬　ちりぬる　をきつ　をきつ　儀同三司女

新拾表　草の葉に　をきつ　をきつ　前大僧正

新拾物上　神なびの　をきつ　をきつ　人麿

新千物下　ちりぬる　をきつ　をきつ　藤原為時朝臣

新千冬　月さゆる　をきつ　をきつ　藤原為頼朝臣

新後拾神　ちるやいな　をきつ　をきつ　藤原為家朝臣

新千恋一　ちることに　をきつ　をきつ　藤原為氏朝臣

新千夏　一すゝ　をきつ　をきつ　藤原為世朝臣

新拾天

分けぬれば　なほ　しるくもかなしきは　世のやうにぞ　なりにける　　左京大夫

新千恋四

かひなきは　なほ　海士の袖　なれぬれば　しほたれぬ　なほ　しるくもかなしきは　世のやうにぞ　なりにける　　法三宮郎有親卿

新拾雜上

あはれとも　なほ　しるくもかなしきは　世のやうにぞ　なりにける　　法印定成

風雅上

あはれとも　なほ　しるくもかなしきは　世のやうにぞ　なりにける　　徽安門院一条

風雅下

あはれとも　なほ　しるくもかなしきは　世のやうにぞ　なりにける　　待賢門院内侍

新拾雜下

小山田の　なほ　しるくもかなしきは　世のやうにぞ　なりにける　　前大僧正慈円

新後拾雜

あはれとも　なほ　しるくもかなしきは　世のやうにぞ　なりにける　　前大僧正慈円

新拾雜上

あはれとも　なほ　しるくもかなしきは　世のやうにぞ　なりにける　　前大僧正慈円

風雅中

新千恋一

新拾恋二

風雅

百六十八首

わ

新千 雅下 わすれ草 仕下長井
新千 恋三 とはるらん 源孝行
新千 雅中 末こそなき 前参議為定
新千 雅下 問ふ人も 参大僧正隆守
新千 恋 うらなれて 四大江
新千 雅冬 ふるさと 仕宮廣定
新千 雅上 うれ草と 無名抄
新千 雅上 わすれぬ 参大僧正要俊
新千 雅上 よこ雲や 花原秀長
新千 雅上 今はの 参大僧正
新千 雅秋 庭の秋 侍従為教

新千 恋三 よ世くらし 参大僧正
新千 恋三 やっぱ海人 仕二位教定
新千 恋三 うらもなき 参大僧正
新千 神 色深き 花原秀長
新千 神 更ぬる 参大僧正
新千 雅中 かひなし 仕二位教定
新千 雅下 うらみて 参大僧正
新千 雅上 うらなれ 仕見性院
新千 雅下 仕ふるせん 四条隆親
新千 雅冬 道しば 参大僧正
新千 雅下 庭さびて 参大僧正
新千 慶賀 みちびく 参大僧正

新千 雅中
なりひさや
わすれぬ海に浦なしけてらひさめ名をとゝめ
二条院讃岐 千載

新千 雅上
いな海を
わすれぬ海にあさ霧世よりふるさ袖しとゝ
八条院讃岐 千載

新拾 雅上
いふちん
わすれぬ海の秋の月にしたゝ光はなれ
法性寺入道前関白太政大臣

新千 恋二
ひとりぬ
わすれぬ海てひとりしたゝ浦なれぬ
よりとも

新拾 雅冬
吹ふきて
わすれぬ海てたゝ浦なれぬ
源頼政

新千 離別
たゝの海
わすれぬ海ひをいみてはつまを見てゝ
福田

新拾 恋三
あつまに
わすれぬ海の秋のうゝ
西行法師

新千 恋三
あつまに
わすれぬ海やとゝ月
橋本公夏 孝

新拾 恋
浦なし
わすれぬ海にあてゝ
賀茂重保 重保卿女

新千 雑下
やうちま
わすれぬ海に月はなれ
水無瀬院 家

新拾 恋三
海なれ
わすれぬ海ひて花のやとゝ
藤原為家 為家

新千 雅下
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新拾 恋三
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新千 雅下
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新拾 恋三
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新拾 恋三
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新拾 恋三
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新拾 恋三
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新拾 恋三
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新拾 恋三
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新拾 恋三
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新拾 恋三
なりて
わすれぬ海にあさ霧
藤原為氏 為氏

新千 雅下

風 新下
わかれて
人もとめ
いたつと
うたとて
御後とて
いかに
きつれた
春はまり
知とて
いさやて
給せ
まきて

新後拾 忘二
ワカレテ
ツネさめこそ人しかなみ
ツネさまきまくぬのしたとをいたやうへれ水ぬ
ツネさちめたきあの花はまれうちとそあもん
ツネふそんとみくとと也へよ出てや君ゆきし海
ツネみつ川わたはあさつ井あるをやてをるん
ツネみつひん忘川の心澤うつはれまりはく
ツネみつ海はやまの白はれ君はしてきわん
ツネみつ海ひと君をたし也へとみて次君姫まハ
ツネみつ君といとく海はけかきあ萩のやまの原
ツネみつてん祝せりあちくふ飛ハさてとて
ツネみつ川いひるさん恋ゝとうれあ庭ゝら君
ツネみつ川にぬきるしれてきけい秋ゝきるれ鈴原

新後拾 忘二
前拾
まき
風
まき
新後拾
冬
新後拾
雅中

源頼貞
法千慶
花平長秀
三条公忠
寂真法師
藤原道
三長力連
源金左衛
大坂御右
早大江
李俊成
昭法三位
力
御製

風 忘五
ふ海くれ
ぬるひき
年はの
牡風り
かたつみ
タかぬあ
ふたりや
ふるつ雨
きてみち
ちのの
ちのの
ちのの

新千 雅上
新後拾 雅秋
新後撰 雅別
新千 雅中
新後拾 賀
新後拾 神
新後拾 雅中
新拾 雅中
新後拾 雅中
新千 恋二
新後拾 雅上
新後拾 冬

たつ秋の
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの

ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の

紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の

三長カ永
三長カ永
三長カ永
三長カ永
三長カ永
三長カ永
三長カ永
三長カ永
三長カ永
三長カ永
三長カ永

人をしれぬ
人をしれぬ
人をしれぬ
人をしれぬ
人をしれぬ
人をしれぬ
人をしれぬ
人をしれぬ
人をしれぬ
人をしれぬ
人をしれぬ

新千 恋五
新千 恋三
風 雅下
風 雅下
新千 雅下
風 恋一
新拾 恋二
新拾 神
新拾 天
風 雅下
新後撰 神
新拾 恋
新後撰 雅下
新後撰 哀

とすれば
う紅人の
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの
ちるこの

ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の
ちる秋の海の

大江為房
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の
紅葉の

月八みつ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ

月八みつ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ
月をうけ

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡
三長カ衡

新拾 雜上
風 巻四
新千 雜上
新續古 巻三
風 巻一
新續古 巻三
新千 巻三
新千 雜上
新拾 巻四
新拾 雜中
風 雜上
新續古 冬

ぬるよや
ワつ嬬ちとしく物の野とりて鶴すく鶴人　橘俊綱朝臣
ワとをけてら芋よ枕藤ハいとしう為ゑ手りれ　曾禰好忠
久方の
ワ若こゑもかりとひて分ゑ物ハけとう秋ゑ武蔵　陽成院
う風に
ワ心めや海めらんるむきて秋よ井ゑ月ゑ　藤原信実朝臣
結ぶる間
ワ心めさゑ人ゑやそれ秋の夏のかてけりる　新宰相
ゑ秋ゑそと
ワ心ゑ人ゑもあ夏ゑ人のゑけ流ゑり　藤原為良
ゑ秋ゑ
ワ心ゑりつれすとちこわ人ゑ流ゑ立舞　伊勢の御
ゑ秋ゑ
ワ心なゑ久ゑれと物のゑひこわひあゑれ　伊勢の御
ゑ秋ゑ
ワ心ゑこゑ秋ゑてこゑけゑ人ゑちゑ　今出川院近衛
ゑ秋ゑ
ワ心とていこゑひゑ世ゑこゑとゑこゑ丸きゑん　大江匡房
ゑ秋ゑ
ワ九きゑ物のこゑ流ゑのまゑて行ゑけん　伊勢の御
ゑ秋ゑ
ワゑ山ゑ物ゑ宮ゑこゑ流ゑ　藤原敦頼

ゑ秋ゑ
ぬるよや
ワつ人ゑれゑ　伏見院御
ゑ秋ゑ
ワゑひゑれてあちこゑこゑれの秋ゑ流ゑ名ゑ月　藤原宇治
ゑ秋ゑ
ワあとゑこゑ清ゑてゑこゑ宮ゑ流ゑ　後三條院
ゑ秋ゑ
ワあゑ海ゑ秋ゑ秋ゑ流ゑのひこゑ秋ゑゑ流ゑん　伊勢の御
ゑ秋ゑ
ワあゑもゑ秋ゑ秋ゑ世ゑこゑひてゑ秋ゑ秋ゑ　源之正
ゑ秋ゑ
ワあゑもゑひゑあとゑこゑゑ流ゑ秋ゑ流ゑ　後鳥羽院
周防内侍
ゑ秋ゑ
ワさゑこゑゑ秋ゑこゑゑ流ゑ流ゑ流ゑ秋ゑ　藤原
ゑ秋ゑ
ワえゑ秋ゑ秋ゑこゑ秋ゑこゑ秋ゑ流ゑ秋ゑ流ゑ　藤原大納言
ゑ秋ゑ
ワゆゑさゑ海ゑ久ゑ山ゑのゑまゑと月ゑ海ゑ流ゑ流ゑ　後二條
ゑ秋ゑ
ワ秋ゑ流ゑ成ゑゆゑ流ゑ秋ゑ秋ゑ流ゑ　藤原宗輔
ゑ秋ゑ
ワ秋ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ　後二條長
ゑ秋ゑ
ワ秋ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ流ゑ　藤原俊成
ゑ秋ゑ

風 巻四
新續古 巻二
新拾 雜春
新拾 雜下
新拾 雜下
新千 雜下
新千 慶賀
新續古 雜下
風 賦
新拾 雜下
新續古 巻一
新拾 巻九

新拾 恋四
新千 雅上
新拾 雅中
新拾 雅下
新拾 雅下
新千 雅中
風 雅下
風 秋
新千 恋二
新千 恋五
新拾 入
新続古 雅下

ワが分のつひとなりひとを人はしらなくに　小町
ワが分はなほふかくひきそんるそこなる名をたれかたのまん　業平朝臣
ワが分ふむしをてなりぬるよい恋ゆゑ名の立ちぬるかな　伊勢大
ワが分ふるとや月の月てくく袖よりとけ雪ふる　俊成卿女
ワが分ごとの人なの月いたくれなるの恋ゆゑとも　源重之
ワが分はとしなる袖ようん恋のくるしてくるし　行宗朝臣
ワが分はとしなる袖ようん恋のくるしてくるし　伊勢
ワが分はくるしてあるこの恋原をあるかとしてくるし　俊頼朝臣
ワが分はくくかの車のなるせようこのなるや作ん　業平朝臣
ワが分はくるしてあるこの恋ゆゑ　業平朝臣
ワが分はくるしてくるしてくるしてくるしてくるし

新千 神
新拾 恋五
新千 恋一
新拾 恋一
新千 雜中
新千 天
新續古 雜下
新續古 雜上
風 恋五
新千 恋一
新千 恋一
新千 神

神代紀より
みしや夏
いふせん
ひさけ
うかを
ほたてう
書こそ
いく物ぞ
ふる海
人をも

わやうちに新ふりて老れけるこそ哀の月　祝部成長
わやあるめ笑しまはつてさうもうるに　一条大政大臣女
わふれてとそえ堀の来ゆうてはし　右京大夫
わわる海の公ゆうくゆうなひうそ海ふりの　小侍従
わひひこりいうしはんそうろう絵　道命法師
わひこりのおそにあやうそむ月とみつき　氏ふみ君
わひこりの雑とてや書て月は鹿ぬる浦　式乳門院 御匣
わひこりのタくれさのにねふうれ海　三位殿宣旨
わもと人しわやにそうろう新のれのうる人　後鳥羽院名
わちうもえれふるみのうふれめひ社し　右大臣
わちうもえのうふうそんめふめあるひ紙　惟宗大臣
わ人今れて石清水のうさうれのま海と海人　赤染衛門 大臣

新千 雜上
新拾 雜下
新千 雜上
新續古 雜上
新千 冬
新續古 雜下
新千 夏
新拾 雜上
新拾 雜去
風 雜下
新續古 雜中
新拾 冬

細とに
おるみ
ひ月
着ました
さはるを
海をを
里ふれさ
あうれて
うひうら
忘をさた
ちの海川
千ろみさ

わりとゆひよをそく新れ出ろうれて物ろう新
わりとゆひのうれ新は三年ゆりり物ろうあもあ新
わりとゆひと新ふりろ海ふれのきれ出ふとみまふ
わすむうるにうるうりあ海のひうれふれ冬
わすむうるれ玄千ろうりやのうれ秋このわう秋
わすむうるれ新やうむうあれ海のうにる新
わすむうれひ新ふりの川れうりう大ろけ
わすむ山れ行ふよ人ふとうれあいうむ出ん
わうすむ山れちう玄ふやこれまうふ色ろふを
わうりかひ新ふう海川ふうう力ひうりの関ひ行ふ
わうう市人ふううんうれ世れふる海ふりやと
わうふのるのなうふうそうあうのうさうのう

実朝 鎌倉
仁安 右大臣 基房公
建久 大臣 兼実
三条 公房 大臣
建久 大臣
常盤井 公家 大臣
信実 作
前参議 後代
前参議 後代
藤原 明
藤原 裏

新拾遺 冬
浦とはく
つもるしらゆきものの中なれや
はるかすみ院御製

風雅 雅中
羽をうて
つかりとはこそ思へ雁のゆく
院御所

新千 冬
ふかの川
つもるせとのゆきあれはこそ
清原深養父

新千 恋四
あとをうつ
つゝあはぬ中に成ぬるかりくぬまの
菊の上の雄

新千 恋三
いとせゝ
つゝあはぬ中のそらあかつき恋のみちに
紀貫之

風雅 神
いはしろ
つゝ世にいはしろ世をいのるとは
太上天皇

風雅 紀
みる人を
つゝまんことをつゝまるゝやとはれ
西行法師

新後拾遺 恋上
をれるを
つゝてのちはいかにまもりけん
源三位頼政

新拾遺 雜上
いく秋
つゝさめぬ夫はのをしりとはかきけて
後二条院御製

新拾遺 雜上
かつゝ
つゝせゝ稿はいまはをとゝはつゝ
花園院御製

新後拾遺 雜上
あくかつ
つゝにとゝしの春はなほ
二条為氏卿

新拾遺 夏
ゝ
つゝにてゝ初ゝ
中大納言家持

風雅 恋四
ゝれつゝ
つゝにいるかつゝなるれやゝ
菅原道真

新千 恋三
きゝ人を
つゝにいるかつゝなるれやゝ
菅原道真

新千 夏
いふせん
つゝにいるかつゝなるれやゝ
西行法師

新千 夏
初鰹まり
つゝにてゝ初ゝ
御製

新千 恋三
紙ゝ
つゝにてゝ初ゝ
花園院御製

新拾遺 雜秋
ゝ
つゝにゝ家をゝ
伏見院御製

新後拾遺 恋四
あ海と
つゝにゝ海をゝ
藤原為家

新拾遺 雜下
夜ゝ
つゝにゝ海をゝ
但馬

風雅 冬
ゝ
つゝにゝ春日神やゝ
清原深養父

新拾遺 雜ゝ
ゝ
つゝにゝ春日神やゝ
菅原道真

風雅 恋五
ゝれゝ
つゝにゝ月やゝ
菅原道真

新拾遺 雜下
ゝ世ゝ
つゝにゝ月やゝ
陽成院

新千 哀傷
新続拾 恋二
風 恋三
風 恋一
新千 恋五
新拾遺 雜上
新千 恋二
風 恋四
新続古 雜下
風 恋四
風 恋五
新続後 恋三

うつせみ
はかなき
わすられ
袖わかれ
とすれば
袖ぬれて
うらむ
人をこそ
わすらるる
人をうく
いとひわび
いぬつに

つきよりさきにてみきつみつつ
つきこそ分とはかなくたのまれ
つきこそ涙ぬる秋のあれ
つきこそ思ひ出ぬ
つきぬに人のあれて
つきこそうしろ新
つきこそかつらを
つきのこよひ
つきのやみ
つきのこころ
つきのこ分とは
つきやあらん

ふるさと
ながめ
ながめ
ながめ
ながめ
ながめ
ながめ
ながめ
ながめ
ながめ
ながめ
ながめ

新続 恋三
新千 神祇
新拾 恋四
風 雜下
新拾 夏
新千 雜上
風 恋二
新千 恋一
新拾 恋二
風 恋四
風 恋五
新拾 雜下

ぬれぬ
神にぬり
えらぶ
すまぬ
あらぬ
きれぬ
さきやと
えらぶ
世をかけて
人をそ
うみてを
世をこそ

つきやゆうべ
つきこそいつも
つきこそ
つきこそつ
つきこそつ
つきてみ
つきにつ
つきにつ
つきにつ
つきにつ
つきにつ
つきにつ

業務の女房
津守国之
西園寺家内大臣女
賀茂院
院御製
進内親王
春日
前信濃
東大納言
院御寄
西園寺家内大臣女
左兵衛督
直義

新後拾遺
忘れ
新後拾遺
恋二
新後拾遺
恋二
新千
春下
新後拾遺
雑下
新後拾遺
雑中
新後拾遺
雑下
新後拾遺
雑中
新後拾遺
雑下
新後拾遺
雑中
新千
雑上
新後拾遺
雑下
風
雑中

わすれにしとりあるとよいたと　大江貞重
うちたとしつれなくてつきぬのけてとふん　友原有宗
むすびかはしかきあつめ　海意法師
いはしとはいかにかはるとつれなきかとはいはしとは　藤原為家
ひとりぬれ　八十九歳　為家
すこしなれて　藤原信実朝臣
嘆なるあいけまてのこのしたとは　武蔵院御面
なるへて　藤原成範
うらはせよ　英仙門院
なの枝と　藤原為家
やはしの人乃　

風
雑下
新千
雑上
新後拾遺
雑下
風
雑中
新千
雑下
新後拾遺
雑中
新後拾遺
雑下
新後拾遺
雑中
新後拾遺
雑下
新千
春下
新千
春下
新後拾遺
雑上
新千
雑下
新後拾遺
雑中
新後拾遺
雑下
新千
春下
新千
春下
新後拾遺
雑下

雲にかくれて　院御所
わかれ　
いつちれ　
ちりてゆく　
ちれ　
ゆきて　
ゆきて　
ゆきて

新後拾 恋上
新拾遺 恋上
風 天
新後拾 雜
風 夏
新千 物上
新千 恋五
新後拾 恋三
新後拾 恋又
風 恋
新千 離別
新後拾 雜物

たとへもつれん物ならぬ
なれしあるかの雪ぬれ
つゝそうれとをのりそ
なれをのりそ
むつまじ
世うきく
立れよう
ひりさとに
ひりさ物ひとり
ひとりつれ年月とう
ひとりつれ
ひとり程よ
ひとり世うく
ひとり
ひとりとて
ひとりの
ひとりの

大宰権帥伊周
三条院御製
前大僧正慈円
小弁小町
前大納言為氏
後鳥羽院御製
後人合
賀茂
武平知盛
前大納言為氏
前大僧正慈円
前大納言為氏
前大僧正慈円
前大僧正慈円
前大僧正慈円

新千 恋四　うれしさに　ひとしれずやすん　いねけるよかりしよりかはゆるみゆと　前中納言定家

風 恋三　わすれてはあはれとやいはんとこたへて　人に打ちとけ　集内裏

風 恋四　さかりなる　ひとしれず行かれぬかり　金氏定家卿　仁徳院殿

新後拾 雜上　名をかりも　ひとしれぬ　あはれとふ　梅の下　藤原俊成

新後拾 恋四　かりと　ひとしれぬ　かりそめ　人のこころ　三長頼秀

風 恋四　とこの海　ひとしれぬ　ゆめ　やさしく　きぬ　式部卿

新千 雜上　ゆきの　ひとしれぬ　ゆめ　やさしく　きぬ　仁徳院殿

新千 雜下　うれしかりし　ひとしれぬ　ゆめ　思出　清水寺僧

新後拾 哀傷　ひとしれず　ひとしれぬ　ゆめ　思出　英信公

二百七十三首

新後拾 神　月 賀　新後拾 賀　新後拾 賀　新千 賀　新千 尺　新千 賀　風 春上　新續古 秋上　新後拾 春下　新後拾 雜秋

新和歌類句集

ち

天地の　ひらきしより　ちはやぶる　神の社　出雲　源知行

春代の　花ぞ　ちるかも　ちとせを　ふるとも　咲　大納言家

巻山の　ちるかも　ちとせを　春の　咲　皇后宮

今ぞ　ちるかも　ちとせを　春の　咲　前大納言

ちとせを　ちるかも　ちとせを　春の　咲　京極前関白太政大臣

あるかも　ちるかも　ちとせを　春の　咲　俊成卿

ちるかも　ちるかも　ちとせを　春の　咲　式部

多の国の　ちるかも　ちとせを　春の　咲　仁徳院殿

ちるかも　ちるかも　ちとせを　春の　咲　仁徳院殿

ちるかも　ちるかも　ちとせを　春の　咲　後鳥羽院

ちるかも　ちるかも　ちとせを　春の　咲　後鳥羽院

ちるかも　ちるかも　ちとせを　春の　咲　光賢法師

新後拾 冬
秋後十
冬
秋拾
冬
風
新上
秋千
猿
秋拾
春上
秋千
春下
秋後拾
春下
風
春下
風
春下
秋拾
春下
秋千
春下

[illegible]
[illegible]
[illegible]

風 新撰 冬

白雲の八重たち隠すとよりひらの中将

後拾遺 是則

新千賀

春ゆくとうぐひすなきてをしむなり

ちるを惜しみてなくかとぞ思ふ

新撰 忘二

春風の吹くからに花のちるなりけり

徳酒公

新撰 春上

雪かとのみ花ちるなりけり

大納言貫之

新千 春下

いとはやくちるかと思ふ春の花

藤原基俊

新続古 雜上

うしと思ふ風にぞ散る春の花

僧正遍昭

新撰 春下

見てすぐしたるかなしさ

大江千里

風 春下

散ぬとてあるかなしさ

敦忠朝臣

新撰 春下

春の花とあるかなしさ

英明親王

新撰 春下

散ぬとてあるかなしさ

俊恵法師

風 冬

うすくこほりかりしくなく

儀同重基

角田川と題して

後拾遺流 奇

ちる雪に水鳥なくらむ

後人ふる

新撰 春上

ちる雪に水鳥なくらむ

清原元輔

新撰 友

春の紙に書きたる

後人ふる

新撰 友

ちるかとぞ思ふ

藤原為家

新千 郭中

春の紙に書きたる

大江千里

新続古 神

ちるを惜しみて

藤原為家

新千 神

ちるを惜しみて

藤原為家

新千 春上

ちるを惜しみて

藤原為家

新千 春下

ちるを惜しみて

藤原為家

新千 忘中

ちるを惜しみて

藤原為家

新続後撰

ちるを惜しみて

藤原為家

新千 忘中

ちるを惜しみて

藤原為家

水辺に立石ばかりと

ちるを惜しみて

藤原為家

新後撰
雜
新拾
恋四
新後撰
恋三
新後拾
恋二
新千
恋四
新千
恋二
新千
恋二
新千
恋四
新拾
恋二
新後撰
恋四
新拾
恋三
新拾
恋三

なまて撰八分なる
あるらんなかの八月
河りの秋とはなれ
ひとり物の衣なる山
はるかにあるなれ
ありし秋の夢なれ
かひなしや宮よりあれ
ものとなりあれ
わものるみなれ
今と今八のつゝ
さもるみなりあり
かりもあり河りさ

ちとりて
ちとりて
ちとりてまこあまて八
ちとりてんなれ
ちとりてあこあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ
ちとりてあ

夜人之
藤原聖兼
摩訶衍
空信成四
菅原氏
二条院讃岐
法下法信
菅原重視
前参議
太上天皇
贈信俊卿
後拾遺

新千
恋四
新拾
恋三
新後拾
恋三
新後拾
恋三
新千
恋四
新後拾
恋三
新後拾
恋三
新後拾
恋三
新後拾
恋三
新後拾
雜上
新後拾
恋三
新後拾
雜春

ちとの
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて
ちとりて

葉室宗頼
藤原氏
信定法師
院御所
信貫朝臣
後院高倉
後人之
菅原為之
二条院讃岐
藤原信実
後鳥羽院
菅原雅苑

彩千
京二
彩抽
京三
彩抽
京四
彩抽
京五
彩抽
京三
新千
京四
彩抽
京二
新続古
京三
新千
京二
新続古
京二
新千
京三
新千
京四

けれはさて置てこの人々
京にのこり給へりしを
夏のてをしとはぬ
さて京にあやまりきての
夢とたに思ひもよらぬ
世にあるとはいかなるこ
あるまじきことにて我ひとり
ひとりの罪にしてもの
をのこの川ぶりとあのむ
わきあまりとあはむ事の
今の夢はあらの
かなしてよりあるにこ

ちさとかとはまをたにはてをすて
ちさとかるいのちを人はなけの
ちさとかるをもて一夜のうちの
ちさとかるなるへしとをもはく
ちさとかるやうにてはなるの
ちさとかるなにとけ夢はうら
ちさとかるの一夜とは
ちさとかるのやうにあるの
ちさとかるのあるのとはかり
ちさとかるなにはなるの
ちさとかるなにはけとの
ちさとかるなるつよ
ちさとかるとはるの

後鳥羽院
後宇多院
後人の
法皇御製
惟宗忠良
安東長秀
英俊長秀
北条泰時
略祐夏
参議長遠
常盤井殿
宣政門院

彩千
京一
風
京二
彩抽
京二
彩抽
大
新続古
非上
新後拾
京三
彩後拾
京四
彩後拾
京二
新続古
大
新後拾
京四
新続古
京二
新千
京三

君を我いのるあとの
はるむ中はるとさくあ
はるとはいはるれ
あのしをよさこの今
やりあるむ月の
伊のみをこの中も
はるとてみあはあ
つまるてやく林風を
あの氏山をあるさ
ちるさくはるひとる
枝をあはとをて
あちさくしの夜は

ちさとかんしてはをあの
ちさとかるあるそまあるよ
ちさとかるそのはるあ
ちさとかるてしはるの
ちさとかるをはるの
ちさとかるをたのこの
ちさとかるうさをたる
ちさとかるさ山はまる
ちさとかるをてあの月
ちさとかるはあはて
ちさとかるはあの
ちさとかるはあの
ちさとかるはあの

後人の
永福院
英俊為世
常盤井殿
多々良盛見
宗仲法師
藤井時定朝
順徳院御製
英俊宗家
宗覚法師
後伏見
後伏見御製
後院御製

新拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新千
新拾遺
風
新千
風
新拾遺
新千
風
新後拾遺

月のはなをこそ時なく我ゝの郎　上部恵直
いとりとりしやくもまたなかめたるあし　源和義朝臣
ちはの秋の夜の花ゆゑ　平時村朝臣
まて志ゝ〻ゝまとも松すくさ南と野の別路　後光明照院
あしたのあの道をも　醍醐寺法親王
秋のことゝ月の松な　藤民部卿
ちるくもの尼衣と　道因法師
ひとゝ人をとゝ春雨　美濃經顕
いく秋たゝ月ゝ山の雲地遠く　法性成通
ゝ月ゝ年ゝ世ゝ　宮内卿永範
君や今かゝるゝ文よ　尼大弐

新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺

ぬ

新拾 春
ひ出とおもふて神の
ぬ　源高秀

新千 尺
ゆふひかりさせ花菅を
ぬ　昌義卿

新拾 立三
ふしぬまをひかりの
ぬ　源貞世

新後拾 秋下
第枕出りかりを
ぬ　後鳥羽院

新後拾 立二
ひかりて神のあるしの
ぬ　皇后宮藤原

新後拾 立二
ひかりめる海のとこたん
ぬ　藤原雅朝

新拾 冬
むらいちしぬまの
ぬ　藤原家

新後拾 和秋
春のもとのかりもむ
ぬ　後深草院

新後拾 立四
いとをくちるる神み
ぬ　後頼朝

新拾 立四
はをとなるる神を
ぬ　皇太后宮

新拾 冬
うちたゝ祝への神をも
ぬ　皇太后宮

新千 春
ぬ　芝式部

新拾 立二
ぬ　藤原利光院
関白内大臣

新後拾 雜上
ぬ　藤原利光

新後拾 夏
ぬ　中宮藤原公宗

新後拾 雜
ぬ　冷泉院前内

新後拾 去上
ぬ　後宇多院

新拾 春
ぬ　藤原家隆

新後拾 尺
ぬ　藤原行春

新拾 秋下
ぬ　神祇伯顯仲

ぬ　桂僧正覚寿

廿首

新後拾
雜中
新千
雜中
風
非下
新千
立二
新拾
去上
新千
雜下
新千
尺
新後拾
去下
新後拾
誹
新後拾
秋上
風
冬

を

第八とかはとなれと
なつのもてはいかとうつきうた
ありへとたのうたを
なつのあはのまきくうりを
今夏のうしとふをを
なとかはかりへ毎月生をもや
きしより神のあるく
なとかはをあつせをもひをを
去のうあき意風を
後拾遺
なとかはのはは岩根をうとを
せき入るひるくは
なとかはをこえて人のをくをは
まき人をもしとを思
なとかはせををのゆうをくは
山風の吹ゆかりゆ
なとかはせを入の花を踏のをを
きむ色嵐はつはは
なとかはををはりをををを
ゆくををはををむ風
なとかはを山関ををえをや秋ををを
うれををを本に風の
なとかはやをを君ををのをををを

後深院
京白
京左
観意法師
乗務遍
後拾
後拾遺
関白左
関白左
後拾遺
後深院
京白
京左
権中納言通俊
乗務遍
秦政雅経
後拾
後拾
二条院
二条院
二条院
京左
京左
京左
中納言重資

新後拾
去上
新後拾
非下
風
非中
新後拾
冬
新千
立一
新拾
立二
新千
冬
新千
雜
新千
立三
風
非上
新千
去下
新拾
冬

玉藻や江の浦の波乃
なとかはををををををを
あををををををををを
なとかはををををををを
校ををを橋をを西をを
なとかはををををををを
ををを波の関吹を松を
なとかはををををををを
いかをををををををを
なとかはををををををを
ををを山をををを潮の
なとかはををををををを
をををををををををを
なとかはををををををを
於江波立をををを
なとかはををををををを
をををををををををを
なとかはををををををを
をををををををををを
なとかはををををををを
をををををををををを
なとかはををををををを
をををををををををを
なとかはををををををを

順徳院
御
稱名院
後醍醐
後宇多
後宇多
後宇多

風 冬
新千 秋下
新拾 雜上
新千 冬上
新後拾 秋上
新拾 雜上
新後拾 冬
秋千 雜上
新後拾 秋上
新千 恋四
新拾 秋上
新後拾 雜下

冬ゆゑ吉野の下水
なとたえて秋のうつりもあはれなり
秋ゆゑ木の葉の風の
なとたえて悲しき月の新をあり
山風の激のとと見えて
なとたえてふしもあそく夜を深き
吹たる雨の山のあれ
なとたえてまさきの葛のつるとやちる
よのはて雲のうき萩
なとたえてはきりよりさき秋風を欲
ひとまきの山風うり
なとたえてかりりよりむせぶ吉野の水

恵賜親王
慶心方法
高野聖僧
後京極院
左大臣
内大臣

さえうつる嵐ハたえて
なとたえて雲ハ
分入の山のはしの
なとたえて人くふとかさりとなやらん尾
志の名風りあるさ
なとたえて萩ハ上葉よりそそ
あ夏ゆゑ山の水
なとたえて神ゆゑ秋人

摂政後公敬
参議泰家
是信院
関白左大臣
参議定長親王

行ひつる杉の木蔭よ
なとたえて神ゆゑ秋の月世

後鳥羽院
花山院前太政大臣

面ちる行の色ハ
なとたえて月ゆゑ秋のわれ

秋後拾 春上
秋後拾 秋下
新後拾 雜秋
新後拾 雜下
新拾 雜中
新後拾 哀
風 秋下
新拾 羇
新千 旅
新千 夏
新千 冬
新後拾 冬

神のうゑ紀ゆゑ秋のむしの
なとたえて桃ゆゑ秋のうつり
秋ゆゑ野辺ハ
なとたえて淺茅の露とちる月を
色の秋ハ
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
冬ゆゑ色ハ
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
都へ
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
ちりて
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
ぬ
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
うつり
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
うつり
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
うつり
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
吹
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
風
なとたえて月ゆゑ秋のうつり
風
なとたえて月ゆゑ秋のうつり

式子内親王
津守国冬
苏我雅親王
隆覚法親王
弘国法師
後鳥羽院
太上天皇
大宮内重
英俊朝臣
徽安門院
参議実教卿
源真釈朝臣

新続古 冬
うらすむ真葛原浪
なびきこえて雲にうつるみのうら風
後鳥羽院 成通
新拾 冬
さをしかのあとと風の
なびきこえてもるまをもしる秋の露
藤原雅孝
新続古 冬
雲ぬけのあまつのはしぬの
なびくかさ夜の神なびまをもしる
藤原宗重
新千 秋下
九重にふきこす菊の
なびきあらたなる神の霜をそなる
常盤井入道太政大臣
新続古 雜上
花の色をそなびかすふ
なびきあらぬ神なびの山の雲はあるもの
後嵯峨院太政大臣
風 冬
ゆふ雨はもの物のわれも
なびきをせてうつる雨の物思ふ
後二条師通
風 雜中
山ぬしをみの人をも
なびきをせて花の色のうつる色はいつ
藤原師通成
風 恋三
たつたしをすまとをせすまとをせすまとをせ
なびきをせて秋の色のうつる
藤原定家
風 冬
色はいろはのあしの
なびきをせて山ぬしのうつる雲はなし
永福門院
新拾 雜中
ちとをくはなびきをせ
なびきをせて世の人はいとはしほ
頓阿法師
風 雜下
わたつみの塩のまつ
なびきをせしとうを世の色をいとはし
門大臣宗
新千 冬
なびきをせ月八風とあまの
なびきをすまりぬるあ玉ぬ玉の
昭法友

風 冬
新千 雜下
新続古 秋下
風 恋
新続古 雜下
新千 秋下
風 恋
新続古 雜上
新千 雜上
新拾 秋下
新後拾 雜上
新拾 秋下
拾ひしるかの秋のもの
なびきをすまりの風はまする夕ぬれ面
進前親王
秋ぬすまたなすまるの
なびきをすまりの面の花をもる尾
信眼行法
雜後の月の花をのまの
なびきをすまるみる夕雲の秋はいとせ
後鳥羽院御製
月の光をのまの水
なびきをすまるみる夕雲の秋はいとせ
或アヒ恒明親王
あまりをしらるるうえ
なびきをすまるみる夕雲の秋はいとせ
橘元春
秋の風りの花の
なびきをすまるこの秋はいとせ
信中納言朋
なびきをふかなかけ
なびきをすまるこの秋はいとせ
藤原隆信卿
きのうあ風たけの
なびきをすまるこの秋はいとせ
後鳥羽院
うるひき里をかとう
なびきをすまるこの秋はいとせ
民部卿為
秋ぬき月ぬきしる
なびきをすまるこの秋はいとせ
中納言為
こをのすきぬけ
なびきをすまるこの秋はいとせ
信中納言為重
水のあやをかるあり
なびきをすまるこの秋はいとせ
大納言公實

新拾 雜上
風
玉葉
新續古 春
新千 恋二
新續古 冬
風 雜上
風 冬
新拾 恋二
新拾 誹
風 雜上
新續古 雜上
新千 友

神武門院御歌あり玉
葉のとりかとたりも
秋といへども春来れ
ばとてうぐいすの
鳴こゑにて霜を
春来るうぐいすの
逢坂を霜とうたた
人恋しの玉乃
瀧川はこをり玉の
岩うつかとも見れ物を
新しかるまの名ん
時ゐて春来に海ちう

とりの下あ次あるをうれ山せ
とりのこをうたうる時よ見をうあを
とうらてあるあうき新まをやつ
とうえて抜くことれありくうう
とう雅のうお乳の名をもうを
とう雅のうのとをてかれをてをくも
とう雅の松の葉をうを鈴の初雪
とあをけてあるあ年をうほ
とあをて水のいをすうあをより
とをれとまつ去けるを見れて
とをを春とを新やと山の風を新
とを橋去八本山嶺よ海ちうかうり

醫院大納言
後人をう次
象家編女
基多院前
英俊公義
権律師慈成
道命法師
伊勢大納
後三位行家
本院宣宣
英泰雲教之
院御制

新千 雜上
新千 賀
風
新拾 誹下
新続古 雜中
風 恋二
新續拾 誹上
新千 恋三
新続古 戀十
新續拾 雜中
新續拾 恋四

かをとうのぬ見山うれの
雨を旅ちうのひきて
引て見ん山うくまの
龍田山松ふけきりの
山をと法ほ木ちうかれ
やをうのくけの雨れかの
雨まをうとなりひ去を
人まの夜れたまの
袖こかをうをりもの
いかもへあるうの玉の
しをふ夜れなまの
雲をとへ山をうりの

とを橋乳あを咲八時をとあ三を
とを橋ちのひ不をを形ち
とを橋あるをれあう去れ尺よ
とのう孫をうき乳の名を移ち
とをまをたこかひまをたう名れけ脇
とをまをたこあるうや人よう尺をまん
とをまをたこうう尺ををやこうり金
とをまをたこあるひををくををへけう
とをまを恋八をを乳雨ををを乳ち
とをまをたこあるをよををををを
とをうを十月あうを移をを雨く
とをうを新八中をへをををけく

平高宗
後鳥院製
放家長往
雨言為友
三位義重
乗行言為家
贈従二位為子
平行氏
藤原定家
校後鳥春
後番院後
関白前左大臣
宗賢門院

新後拾 忠三 新後撰 冬 月 忠一 新後拾 忠又 新後拾 列 新後拾 忠二 新拾 忠一 新後拾 忠二 新後拾 雅上 新拾 忠三 新後拾 秋下 新後拾 秋上

月 尺 新拾 新上 新千 忠二 新千 秋 新千 忠三 風 尺 風 文 新後拾 新中 風 吉下 新拾 離 新後拾 裏 新後拾 裏

後三條院御製
寄月述懐
藤原俊定
法眼浄弁
後三條成賢
円融院御製
権中納言公雄
念阿法師
法眼浄弁
後象徳院御製
法眼浄弁

後三條院御製
後人 忠
小槻匡遠
後三條為子
藤原覚寛
権大納言公雅
後白河院御製
皇太后宮大夫俊成
藤原為家
権中納言雅経
和泉式部

彩千秋上
しらくもの秋の草葉の
とくるかぜ八重なびくとそれかこそつく　貞恒

彩千忘三
立つるあしの花なびくなり
とくるかぜ神のゆるす秋の夜の月　後鳥羽院

風秋中
萩のうへのかりの後れ
とくるかぜ八重なびくなり月よむすび　式部親王

彩千秋上
七夕のかたらふ夜とは
とくるかぜ夜のあけぬる秋の空　藤原為家

風秋中
むらさきの草の花ぶさ
とくるかぜ夜のあけぬるかたらひ　後二位為行

彩千秋上
しをりのやまの草ばかりの
とくるかぜ夜のあけぬる月とたのむ　西園寺実氏

彩後撰忘一
うつろふ萩の下葉より
風吹くなとそよ　秋ぬしのとそ　藤原定家

風秋上
風吹くなとそよ
いく秋ぬしのとそ　藤原定家

新千秋上
秋ぬしのとそ
秋ぬしのとそ　大江貞重

彩拾遺恋五
わさのの草葉よりの
秋ぬしのとそ　藤原信実

彩後拾忘又
秋ぬしのとそ萩の露
とくるかぜ　後人之和

風忘四
秋ぬしのとそ萩の露
とくるかぜ　光孝天皇御歌

彩後撰秋
うつりてはいかなる
とくるかぜ　世間無常之歌

風秋中
花の色のうつりてはいかなる
とくるかぜ　花鳥風月之歌

彩千秋下
夕ぐれの雲のうつりし
とくるかぜ　源俊頼朝臣

新後撰秋
月の秋ぬしかたれの
とくるかぜ　摂政太政大臣

彩拾遺秋上
今はあきの秋ぬしかたれの
とくるかぜ　藤原良経

彩後拾雜上
時雨つる雲をかさねて
とくるかぜ　後三位雅家

彩後拾離
嵐ふる雲の月
とくるかぜ　頼政卿

彩後撰忘一
いつまでか秋ぬしかたれの
とくるかぜ　藤原為家

彩拾忘二
ふる中八浦ふり
とくるかぜ　藤原為氏

彩千冬
冬ぞてはかりたの
とくるかぜ　藤原為氏

彩千雜上
わさとはなくとはなくの
とくるかぜ　藤原為家

彩拾反
月の雲のうつりとはなく
とくるかぜ　藤原為氏

新千 秋下 秋たちぬ霧のたてるは天の川 大江高廣
新千 新上 いかなるとかはなくらん 善子法師
新千 新上 世に入てはくかはるなり 奈良教有
新千 忘三 河とりの声のとたに 元可法師
新後拾 離 あふと見るはあかつ 九条右大臣
風 忘二 もの思ふ夜の 進子内親王
秋千 忘三 いたりとおもひしの 雄舞法師
新後拾 新上 河とと霧とたちぬ 飛鳥井前大納言
新後拾 新秋 夕れは第六天外の 為道朝臣
新千 新上 神のうへまでも霧 後西園寺入道前太政大臣
風 新上 若ちる神の河とを 同
新後拾 秋上 をみるへしとまの雲 二條院讃岐

風 新上 ちる色とも夕れ雲の 兵部法師
風 新後拾 秋さはまさ雲の 清原元輔
風 新上 名をはやてはしら露の 藤原為頼朝臣
風 尺 ちる色とも夕れ雲の 藤原為頼朝臣
風 秋上 いくとせをかけて秋の 藤原為頼朝臣
新後拾 忘二 一夜あるよ秋とそゆく 藤原為頼朝臣
新後拾 秋上 あへてさくらの中をも 藤原為頼朝臣
新後拾 秋上 名をはやてはしら露の 藤原為頼朝臣
新後拾 秋下 ちる色をこそかなしき 藤原為頼朝臣
新後拾 秋上 多よ色は神なかふ 藤原為頼朝臣
新千 忘中 二筋ありなりしを 藤原為頼朝臣
彩千 神 ちる色をこそかなしき 藤原為頼朝臣
新千 哭 いとの山ちるあしの 藤原為頼朝臣

新千 雜上
月はつれなくとはなりぬれど
ことはなほ衣きてもしのばるる　後堀河院御製

風 冬
ことはなほ衣きてもしのばるる　後堀河院御製

新後撰 雜秋
いかにかはかくてもとはぬ若草の　權中納言公雄

風 京四
今ぞうらみとたのめしを　四大氏

新千 冬
うらみてもなほ恨みぬ人の　院御歌

新拾 雜中
ちぎりなれば恨みぬ人の　藤原公脩

新拾 京又
今はかなしきものとなれば　後鳥羽院御歌

新千 京又
なほ人のなりゆく世　藤原為世

風 雜下
おきまよふ波とたちまよふ　後伏見院御歌

新拾 春上
春の海はなほ波たちまよふ　義孝公

新後撰 冬
はるかに山はなほ雪ぞふる　藤原為氏

新千 賀
秋ぞうき山田のかりこ　皇太后宮大夫俊成

風 祝
ゆりもあへず神代をへぬる　後鳥羽院御製

風 春
さくらはなほ春ぞ　藤原為氏

新拾 尺
春ぞ　朝平門院

風 春上
のどかなる春ぞ　前門院御製

風 雜下
ちりまがふ春ぞ　進門院親王

風 京三
ちりまがふ春ぞ　永福門院

新千 秋上
春ぞ　同

新續 又
はるかに山はなほ雪ぞふる　津守國量

風 秋上
山人のなほ春ぞ　後伏見院御

風 又
夕立の雲吹くとかの　御制

新後撰 雜下
うちぬれて春ぞ　宣光門院新藤原為定

百九十首

新後拾
京三
新千
誹
新千
親中
風
友
風
京四
新千
京三
新千
京二
新千
義
風
親下
新千
秋下
新後拾
非

わ

新千
京三
新拾
離
新千
京三
新千
義
新拾
離
新後撰
京三
新拾
義
新後拾
離
新後撰
京三
新拾
義
新千
京三
新後撰
京三

いとやまとめてあつへき
そのまゝよまれぬ無
人の成の狩をこそ世
いと世川のなかれ乃
とまり今遊あるめ
けんなくあとそや
をまてまあのう紀世
まつれ流もをも也
かくなといとあもりの
みもん書たもう紀
うきてもをもそかぬ
うをかとうをとかを

為尊親王
後冷泉院
英雄
宮内卿
宮政門院
清輔朝臣
為家
為教
後宇多院
宰相典侍
花園
親房
源頼元
性成法師
為家民部
権中納言
為重

物語
京三
新後拾
誹
新後撰
京三
新千
京三
新千
京三
新後拾
京三
新後撰
別
新千
京三
新続古
京三
新千
長
新後拾
離
新続古
京三

源氏物語の
あつまの
あつまちとあまたかたらひつる
あつまちとやとりのもとに
うちつけにうちつけて
あまあまとあまあまとうちの
あちらうちとうちの
あてて
あまたの
あまたの
あまの
あまの
あま

新千 雅下
彩千 忠一
新続古 忠四
風 雅中
新後撰 秋下
新後撰 冬
彩千 忠一
新千 秋上
新後撰 忠三
新後撰 秋下
新後撰 羇
新後撰 忠四

人しれぬ志のみちをたどりつゝ
雲井てのかむしと思へは
たゝ人のたゝそたのもしき
みたとのく苔の高てさ
めぬまてたそ月をもとめ
宮もかいとりてもとめ
せとたなたりとりて
霧やそふるやしたの
色度中を折りやめぬ
秋ぬる夜さむ山ふを
去の聖の月前を
かくいとのをとこえ行樽や

神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ神よそ

後京極殿 自大内方
出羽弁
後鳥羽院内侍
如願法師
信実朝臣
深守法親王
為家卿
法下宮内
多々良義弟
英俊長光卿
聚式部
藤原長秀

新後撰 忠三
風 雅中
風 忠三
風 雅
新千 雅中
新後撰 雅下
新後撰 雅上
新後撰 雅上
彩千 雅中
新後撰 雅上
風 雅下
新後撰 雅中

こゝの野はたはしりもの
いけとうてゝ人のとゝさた
わとかゝるとあ高
忠山うちこえ人を八
石城けてあるかひ
をこれかそ石田ゆ人とハ
人をとるとか高と
さてをの門雅ハひかん
むかのありくはなるを
人のこゝすはのこや
をしはまかきあつさ高
雲井まてをもかるる

中よ後ハ行色代とあるまて

祝部成定
後院宮内
今出川後雅
宝金村
英俊言為氏
清原慶運
二条為親
頼人為如
達智門院
源義将軍
英定英宗雅方
松の法師

新後拾 雅上
新千 誹
新拾 賀
新拾 雅上
新千 忘一
新後拾 雅上
新後拾 去上
新後拾 去下
新千 去下
新拾 冬
新千 秋上
風 友

尋ねつる玉とや見む
人の名のあやなりてを
うれしあるさまりぬる
と入考去あさ賀く
うるうこ春はをよ
あさとり賀人の庭や
ぬるまくしとうまてる
ちる風をんてぬけ
本代をかはこうく
ありひさ山よまろうハ
秋は夏花ものよう
郭公まりとをゆす

る代備の上河はくとうかをを
る兼代りひくとりひ山をりる
る国の屋ををまりよ清都也
る兼代くまてをてををを也
る兼代とのもとをを代を思
る兼代ものをををりるる
る兼代の庭やをりをを
る兼代の素代兼よ雪ぬりは
る宿い花をりやりのるをを
る宿よんのとををもものるる
る宿ををりをを代をまをぬり雪
る宿をりをりをりを雪をりをる
る宿代池の花原るるりをり

後撰 詠人しらず
康資王母
後撰 詠人しらず
左京葉平朝臣
中宮女宮母
衣通姫大臣
後撰 詠人しらず
後撰 詠人しらず
伊仁親王
後二位家隆

新後拾 去上
風 秋下
風 去下
風 去平
風 雅下
新後拾 天
新後拾 雅秋
新後拾 別
新拾 忘一
風 雅下
新千 秋上
物後拾 秋上

ちりぬよ桜りく
霜をとをとを思
りてをよいそうん
去をあをりて
世成しとをひ立とを
雅よをとををを
あるををををれや
ぬをて今をけんや
するる山ぬの春
うまをすたの一をを
秋の月ををひえん
雪をををもも物のるく

る宿の花をまるる代代去
る宿の雅をるををを代花
る宿の橋ぬをの風をを代
る宿の橋の花ををををを
る山のりをいをを代をを
る山の法のるを代ををを
る山のををふをををのるる
る代をををををををををる人
る代ををををををををる
る代ををををををををる
る代ををををををををる
る代ををををををををる

左大臣
亦卿帝時
藤原元真
朝臣家持
左侍従惟性
亦侍従遍玄
左兵衛督張連
藤原長強
常盤井入道
前太政大臣
貸院内
皇太后宮大夫
後鳥羽院御製

新千 ほとゝぎすうきてはなくもあるかなとの神そきゝつる人 普光園院殿
新拾 ちらぬまの花をとはゝやとはゝやとはゝや

彩掾 三下
彩後古 新下
彩千 秋上
彩後古 和中
彩千 新上
彩千 秋下
彩後古 秋上
彩掾 羈
彩掾 秋下
新捨 羈
新隔 掾
新千 尺

うしなわるるや花をたづねよ行方知られぬ月
惟明親王
あまもやがたれてうらみてうらみてうらみぬ
曾祢好忠
そらすてしのたしぬ
侍従為親
ひかたにとかりの月をかくふく
藤原道雲
ひかたにとかりの月をかくふく
藤原俊宣
合歓流せとの細
藤原隆博
ありあけのつきもとまれ
藤原俊宣
わすれぬ秋の月やうつる
後拾遺
ものをかなしの浦風
後拾遺
合歓流せとの細
流水行新
合歓流せとの細
平経正卿
いかてなかよたん
博多院
かすりのくもりを
源人
ものをかなしの浦風
源人
ものをかなしの浦風
藤原業綱

彩掾 尺
新千 尺
彩後古 秋上
彩掾 秋上
彩後古 秋上
彩千 新尺
彩千 新尺
彩掾 訓
彩掾 掾
彩後古 意三
彩掾 訓

船よりすてるものうしろ世にすてる
藤原為家
ちりはなすてるものうしろ世にすてる
大江廣房
今はすてるものうしろ海の
藤原為家
あまの家元宮川
源民部
はのすてるものうしろ秋のあとはあるべ
源人
はのすてるものうしろ秋のあとはあるべ
忠岑
うらとなれて
平貞文
山路の
藤原為家
草枕
藤原為家
ぬれぬ
光蔵院
ぬれぬ
入道贈一品親王
ぬれぬ
藤原為家

彩接 あふぎてそらをながめ
忘三 彩千 れなくまちかねしみやこ人
非上 風 ぬるまをあかしてそたつ
忘四 彩接 ぬ人よりひの月をとてや
尺 彩千 力をさうぬるつれ月の
忘一 彩接 いかなるのりをもとめて
羇 彩接 ちりをもとめて
離 彩接 あまりたれ家をたれ
羇 彩続古 をまつる山のをくを
彩接 風 たせ山まつのをくを
秋上 彩接 紙をて家をの雲と
羇 彩接 ぬ雲をて山の
彩千 言をなかめて雲

内大臣
皇后宮権大夫
和泉式部
爽徳院長覚
後人不知
清原定円
藤原信実朝臣
入道殿一品
親王為円
藤原為忠
花院法皇
ト部為直
二条関白内大臣

彩続古 あふ
忘一 彩千 ちやき
忘一 彩接 の
秋下 彩接 の
非上 風 ま
彩接 神 ま
彩千 ま
忘上 風 ま
忘四 新千 ま
秋上 風 ま
忘一 彩千 ま
忘上 風 ま
彩続古 尺 ま

あふ川の山をくもれ
ちやき洲の岩ぬれの
の月ふけよりくもよ
大くの秋なる色を
ちやぬる雲なる山
みやこ人ハ雨ふるを
ぬれて雲をものを
あをふ方ちそのは
いるむ月のをきにも
神ぬれてあるやあらん
みなの人のぬれうちも
をのえをちやあらん

後鳥羽院御製
鳥羽院御製
宗徳院御製
式部卿敦明親王
後人不知
正三位隆教
後人不知
前中納言匡房
後人不知
大宰帥為経
藤原道長
清原経賢

新拾遺　天　冬千　新後拾遺　三　春拾遺　二　秋上千　二　春千　二　兼上　二　尺千　二

今を限りとなれば
秋ぞとにつけぬるかな
夏ぞかりぬひとの
春ぞかりぬひとの
春ぞかりぬひとの
春ぞかりぬひとの
春ぞかりぬひとの
月新の面のとそを
見ぬとさかぬ花を
みをかりつかをとも
高さまの方にさ事

信濃法師
延政門院
隆信朝臣
後人百和
和泉式部
貫之
登蓮法師
太宰大弐重家
友家相如
式部丞盛
俊成卿女

風　去下　千　春　新後拾遺　二　千　秋下　千　二　千　秋上　新拾遺　千　中　千　彩　二　又　風　秋下　千　又　新拾遺　四

あるとは神の春を
たつ波のをりをと
かの夜つよ変しや
きくとは花をよ
夜衣ちかてを
無心なれ方なれば
乃ちまに行くれ
なれとのまに
今を限りとて
人をとう紀のりけれ
王氏国のあるとは風

ゆるまとて根よりの山桜の
ゆるまとかをから花のをれ白
ゆるまとまること浦にんをとも
ゆるまとは春の秋はと人
ゆるまとは遠のそ一八秋の白露
ゆるまとは花の花をの純
ゆるまとはをとをとは花は新
ゆるまとは月やしてはたるへ
ゆるまとは
ゆるまとはたるんはまりかり
ゆるまとはをとけるとやは秋波
ゆるまとはやんはまるこを
ゆるまとは貫秋はをは
ゆるまとは

皇后宮大夫
後深草院御製
俊二位為子
法中覚懐
英仙言為世
進門院王
中関入道前太政大臣
乗空後参議
押小路前大臣
皇后宮大夫
藤内大臣
後人百和

秀板橋
忘二
秀板橋
新下
風
忘四
秀板橋
忘四
秀後古
忘四
秀千
忘四
秀後古
忘四
秀板橋
忘四
風
忘二
秀後古
忘三
風
忘四
風
忘四

よそにのみ見つゝ神のまもりに
中くよりつたへきて
今そわが我さへ井
さゝ分なのみ山
さくとしのみの
すゝ山に春はあり
かゝるてふ
つゝみ路のはる
除そのぬ
ありしのつゝ
いそれ人
人をこれし

風見人すくひ神のまもりて 保頼康
中くよりつたへきて 奈良大乗寺
今そわが我さへ井 院御所
さゝ分なのみ山 月花門院
さくとしのみの 常定
すゝ山に春はあり 侯人公
かゝるてふ 法中慶深
つゝみ路のはる 鹿島資康
除そのぬ 袋院整相
ありしのつゝ 保経氏
いそれ人 二条院御所
人をこれし 法三位頼政

秀後古
忘四
秀板橋
秋上
秀千
忘四
風
忘四
秀後古
忘四
秀板橋
反
秀板橋
忘四
秀板橋
冬
秀千
新下
秀後古
忘四
秀板橋
忘四
秀千
天

中くよりつたへきて 金剛寺
ぬしくよりつたへきて 奈良有家
今そわが我さへ井 前
さゝ分なのみ山 前
さくとしのみの 後
すゝ山に春はあり 法中寺遍
かゝるてふ 後西園寺
つゝみ路のはる 参議泰経
除そのぬ 平重時朝臣
ありしのつゝ 橘義貞
いそれ人 伊勢大補
人をこれし 栄子内親王
玉かつら衣のうゝ 法下妙隆

新後古 三
風 又
秋千 四
秋千 三
風 一
秋捻 下
風 下
秋千 三
風 下
秋捻 下
秋捻 三
秋千 上

なれけるあとのあしたの霜の色
うしもまつ色をやあはれとかけし
ちとせのまつのあらしの音
ひさかたのうきあめのしたのあだ
ふるさとのうつりかはるは
老ぬまの八十の人のなれとなる
ほかりし百年の数を
ちりしりとなるこの
つもりしまつのあとをとはん
ほりしあるまつのあ
ちりそまつのあとをとはん

前関白内大臣
西園寺入道
平常頭
達智門院
参議信俊
入道宮
琴多院
宋俊亜
前参議教長
兵部卿朝仁
後人
度會朝棟

新後古 三
又

ちりにはるしてやはるまてわすれぬ人の名をとめ　素明法師

二百廿九首

新類句和歌集

彩後古 新上
ひさかたの天の原なる月の影
ちりぬる波の真清水の底

彩後古 冬
月けふの石ばしるかさ分ハ
君の代ハのこりなきかな

彩後古 賀
水さえ一枝ハ松ばかり
さかりもるこの紫ばかりは

彩後古 賀
庭ぬらしひとしきりあめ
あ海衣ぬしとぬ濡れ乾ぬ

彩後古 賀
ちりぬるをとりしらぬ
君うたて光のとかりとなる

彩後古 賀
小松ゆ高くなりのたてしき

彩後古 賀
ちりぬる

ちりぬる

野宮尼公下

ちりぬる波の真清水の底

桑波雅

ちりぬるをとりしらぬ

前中納言景

ちりぬるをとりしらぬ

永宗宗門下

ちりぬるをとりしらぬ

法眼浮巖

ちりぬるをとりしらぬ

宜秋門院丹後

ちりぬるをとりしらぬ

上東門院

ちりぬるをとりしらぬ

前大納言為氏

ちりぬるをとりしらぬ

常陸乳母

ちりぬるをとりしらぬ

桑波雅

ちりぬるをとりしらぬ

前中納言定房

新後古賀
新後古非城
新後古賀
新拾遺
新後古賀
新後古賀
新後古賀

新後古夏
ひさかたの雲とうすみる山桜
ちりはひしをさそふらし風
新拾遺夏
雲に紫の月はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
風雅夏
雲に紫の月はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
新拾遺夏
春風に雲はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
風雅夏
春風に雲はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
風雅冬
春風に雲はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
新拾遺夏
春風に雲はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
新拾遺雜
春風に雲はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
新拾遺物名
春風に雲はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
新拾遺
春風に雲はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
新千雜上
春風に雲はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数

後拾遺昭
後京極摂政前太政大臣
千載
冷泉前太政大臣
後鳥羽院御歌
後拾遺
津守四助女
後拾遺
後頼朝臣
前中納言定家
後京極摂政前太政大臣
前大納言後光

風雅
春下
駒ぞ立てこの春しれぬ法の道
なきはのちの夜ふかきあはれ
新拾遺
尺
雲に紫の月はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
風雅
尺
雲に紫の月はうすくもかすめる海
白雲に八重うち山ざくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
新千
春下
他のにもとられてこうけてう
ちりてしくかれ散ぬ人数
新千
雜上
うかり者の花ぞ散ぬる
ちりてしくかれ散ぬ人数
新千
春下
ありてうをそもとふるる
ちりてしくかれ散ぬ人数
新拾遺
春下
雲ふかふ春の山さくら
ちりてしくかれ散ぬ人数
新千
春下
春の雲かすめる海
ちりてしくかれ散ぬ人数
風雅
春下
雲にかすめる海
ちりてしくかれ散ぬ人数
新拾遺
春下
雲にかすめる海
ちりてしくかれ散ぬ人数
新千
春下
雲にかすめる海
ちりてしくかれ散ぬ人数

新於冬　新於冬　風非雅下　風非雅上　風非雅上　風非雅上　風非雅上　風非雅上　新於賀　新於賀　新於賀

大井河あれにかくれもみえぬ
あれはまた松山こゆるも
奥みぬくらゐ雪はのこるまは
風雅上
あさじのさくらはあれて月こそ
かくさるなれ
ちるもみち葉はなほ
ちりつくしたる
ちりつくす松のこゑのしぐれ
ちりぬ
ちりぬ
ちりぬれはなよあくる
ちりしまてもくるる
ちりぬれはなとまる
ちりやすき
ちりやすき
ちりやすき
ちりやすき
ちりやすき
ちりやすき

稚中納言
入道京極
乃助
前中納言相
嶽あつ沈
尼大納言通
度會朝棟
丹後上人
入道京極
道助
源道淵
弁乳母
稚大納言
仕京光卿

彩於冬　彩於冬　彩於冬　

風雅賀
風雅賀
新拾於去下
新拾於春賀
新後古非撰
新千亦
新子非撰
新千去下
新後古冬
新千終下
新子雜上
新於雜上

新於去下
新拾於雜去
風雅去下
新後古終上
新後古終上
新後古終上
新後古終上
風雅新下
新於終下
風雅亦五
新於終上
新後古亦三

ちよにうゑしこゝろのたねをかきりなく
ちよをへて松はなのみとりの
去年はまつ見し山は松ゝえふ
春とやくらるもりのみのさ川
春のてんをとゝえしてい
ひこゝろのたうみて多ひろよ
春のゆきあしたの雪はなりて
とりはもはなのみうちに人まち
深るうり葉やをさ〳〵紅葉して
紅葉にたゝ紅水ちりけみて
いとみれはあゝ春はゆりはも
あはれはれたゝ人ちも
ちよにうゑしこゝろのたねをかきりなく
ちよりとゝ、のゝ末はそゝ冬
ちよりとゝのゝ小はは花ゝ
ちよもはこゝよ和歌はゝ風
ちよもやちよも永よ海地
ちよにはのわゝうの那
ちよにとゝてゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ

流行の世は水よ新てく
ゆるつゝ世は氣はゆ人
ゆりあて船て梅はゝみえ
咲はは花とのゝ名はゝ人
少春の陽へ咲る花は
花のゝ乃花は春ゝ春ゝ
あくゝ花は花は八月もみよ
東は海一は花ゝて花
さ春衣ゆゝ春ゝ地初て
あふゝゝ月ゝ中ゝ春ゝ
いくゝ世は物ゝゝ七月は
かゝゝてみて花ゝ人は
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ
ちよにはゝ花ゝ

尼崎宗貞
花京基任
お東尚公定家
藤原成光
九条尼公
梅宮使公保任
春敬親經
伏人院公
松之素雪
尼崎治雪直義
怪伝行家
贈怪之伝

彰於
京二
彰子
京五
彰後
京五
彰子
姫上
風雅
京一
彰後
京五
彰於
京四
風雅
姫上
彰後
京四
彰於
京二
風雅
非藏
彰子
尺教

ものをおもふこころのうちにとはのうしてはもけふのうれしさ
契ハさてや山ぶみしけの
契ハ
深草の帝
契ハ
法皇四歌
契ハ
法皇四歌
契ハ
拾大納言
契ハ
前大納言
契ハ
前参議康
契ハ
前参議
契ハ
前大納言
契ハ
前参議
契ハ
前大納言
契ハ
前参議
契ハ
前大納言

彰於
点一

彰於
点三
風雅
点三

彰換
点

彰於
点二

彰子
点四

彰換
点三

彰於
点三

彰換
点三

彰子
点二

彰子
点三

彰於
かな

遥まてとうしの海くもの音く
あとたつぬ方もしらすとも思
さしたせをゆふさへそなれ
十人のたれとふらん松尤ふ
かそらの人はなもたつぬせ
ゆしも元いくよ経ぬるらん
俤よしたしうしたもうしなと
俤は古歌をそいはせしも
俤のふしは方のくく
いはてやあ公のうち中くす
泊るもう公ちわはしのと
雨夜のしのくそうしも紅葉は

前大納言為世
為家卿
前右大臣
為氏卿
前大納言為世
為顕卿
為兼卿
前大納言為世
為顕卿
為兼卿
為定卿
為子
為氏卿
為時
為相
為世
為家
為氏
為定
為子
為兼
為顕
為定
為子
為兼
為顕
為定
為子
為兼
為顕

風雅友

彩子雅上

彩後拾 五一

新後拾雅冬

彩子 五二

彩後拾 五二

彩後拾雅下

彩後拾 五一

彩後拾冬下

彩子冬下

彩後拾 五一

約束してるはらうらうこゝろなり
玄兩は冬はて雪ハうらしめん
むもるゆとはれあはれ袖すゝハ
歌ゆめくらべしれるもたけ
ちきうの花とゆうそいりと我
小車はたいりかたいそのゆ
為はるるもとハるよ
せめて行くきのさを
星人さこれ衣とうらもて
うらうらう砧はるも打後夏
うれ人はもりハあて心なて

如

歌あつ況
はるもとは性
大宰大弐重家
為家卿
人九
前僧正仏眼
為秦政通後
前兵部卿
為敦
源持之卿
万冬つ況
前大納言為定

彰於哀
彰於哀
非姫
彰子姫下
非姫
彰子姫上
彰於春下
彰於恋之
彰於恋之
彰後右
非上
彰於姫下
彰於羇旅
彰後右
夏
彰於非下

夜衣ぬれぬいとゆふかけてやは
ぬれてやをゆふ姫松の露　長元
ぬれてをゆふ姫松の露　大江匡房
ぬれてをゆふ山の紅葉　永縁法
ぬれてかさねる姫ごろも　前中納言定
ぬれてかさねる袖の露　入道三品親王性助
ぬれてをとゆふ袖の露　宗尊親王
ぬれてをとゆふ袖の露　正二位家
ぬれてをとゆふ袖の露　源持寿
ぬれてもをとゆふ袖の白玉　前内大臣定
ぬれてもをとゆふ袖の白玉　源中納言
ぬれて袖にをとゆふ　前参議雅有
ぬれて袖にをとゆふ　後人不知

彰子羇旅
彰子春下
彰子冬
彰子姫下
彰於恋
風雅
文
彰子非上
彰後右非中

わたの海にをとゆふ波の白玉
ふるさとにをとゆふ山の白雪
さゆる日の風にをとゆふ白雪
姫ごろもをとゆふ紅葉
をとゆふ白雪
をとゆふ白雪　山さとにて
我なれにをとゆふ　山さとにて
みかの里にをとゆふ　新古
みかの里にをとゆふ　新古
をとゆふ梅の白雪

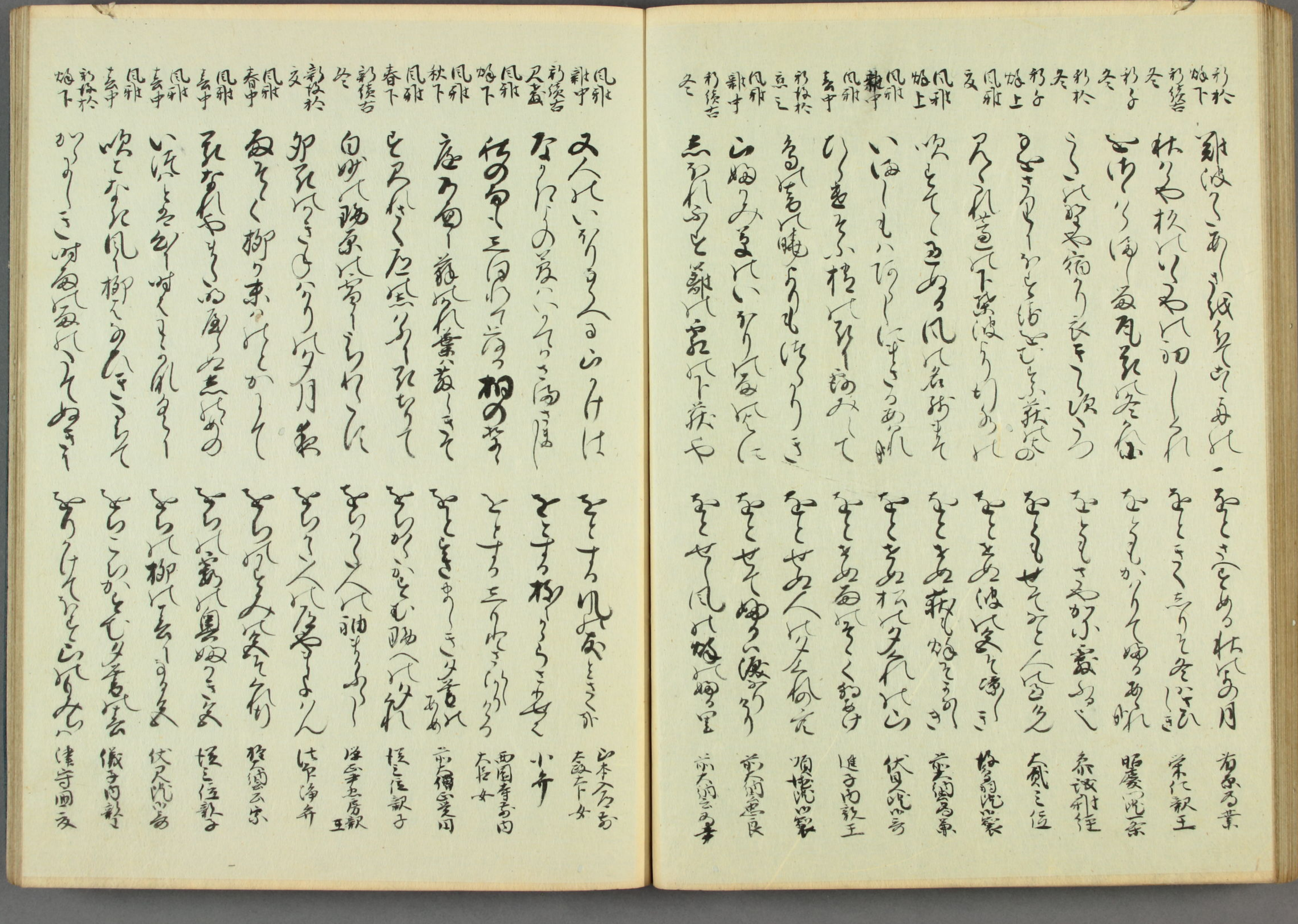
ぬれぬ袖の露　源重之
ぬれぬ袖の露　前内大臣
ぬれぬ袖の露　前内大臣
ぬれぬ袖の露　前内大臣

彩拾
氷
彩子
新中
彩拾
氷
彩拾
点ヶ
彩子
姫上
彩於
新別
彩子
点二
彩於
新上
彩於
去上
彩於
冬
風氷
春中

彩於
点一
彩於
点三
彩於
霧旅
彩子
点二
彩於
冬
彩於
姫上
彩子
姫下
彩於
反
彩子
去下
彩於
冬
風氷
彩於
冬

形於姫下　新後拾冬
形子冬
形於冬
形子姫上
風雅夏
風雅姫上
風雅雜中
風雅春中
形於京三
風雅雜中
形後拾冬

風雅雜中　新後拾夏
風雅姫下
風雅秋下
風雅春下　新後拾冬
新後於夏
風雅春中
風雅春中
風雅春中
風雅春中
風雅春中
新後於姫下



彰於霸張　風雅　姫下　彰於　五二　風雅　姫上　風雅　姫上　彰子　新上　彰子　恵二　彰子　反　彰後古　新中　風雅　尺教　風雅　恵三　彰子　冬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

彰後右京二　彰於新春　彰於新上　彰於友　彰於友　彰後右新上　風雅玄上　彰於姫上　風雅冬　彰子天　彰後右玄下　彰子姫下

高くこそあらんとさだめ
侍人にあらぬ法師もほとゝぎす
今を盛りにてうぐひす新古
鳴きつるほどを思ひ出でぬ
うらやましくこそなりにけ
さうぶ菖蒲葉にてふきて
ぬるほどを歌にて梅やなりぬ
時なき人の御前に
器のもさしも朝日にてうぐひす
一てうにてうぐひすとうぐひす
文ハ雲白ハ風にてうぐひす
もの新にてうぐひす

をかのうへにをかのうへにて（き
をかのさ月にてうぐひす
をかのさ月にてうぐひす
をかのさ月にてうぐひす

彩於新春
彩於姫上
彩女姫下
風雅新下
彩於姫下
彩女裏備
彩於新上
彩後名冬
彩於新上
風雅夏
彩女裏
彩女裏

前中納言為秀
惟宗光吉卿
従二位殿
前中納言家宗
従二位家隆
権中納言雅
座遊び妙
さか宴性
前中納言定家
権家物語
おたの女下
建礼門院
安徳帝
天福四裏

彩後名冬
彩於
彩於
彩於
彩後名
彩後名
風雅新中
彩於冬
風雅新上
彩於新上
風雅冬
彩後名

前中納言定資
前中納言定家
二条院讃岐
源頼元
後鳥羽院
従二位家隆
前中納言定家
前中納言良教

大井川うたの井水くれなゐ
なるの代は月と花とのあり物
はなれぬ月の夜はなりて
秋ぞかはらぬ
滅しそ物かなし物なりな
ぬ
おちふれば雨もみえぬ
うれてみ雨を吹落ふ風
ぞ
ものかなしいとなるも
去年はもうつりかはれば
衰ぬ一夜はなれ
浅茅生
ものしの
武蔵野
ものしの
武蔵野
ものしの
武蔵野

風雅上
彩子羇旅
彩於五一
彩子雜上
風雅恋中
彩須古冬
風雅尺
彩子雜上
彩於雜恋
彩須古雜部
彩子恋下
彩子尺

慶政上人
前人歌会春
前人歌会春
前参議雅経
前参議雅経
僧都観教
前内大臣定
僧正二位隆教
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定

新勅撰 春上

新古 春上

新後拾遺 春一

新拾遺 春二

新拾遺 春二

新拾遺 春文

風雅 春中

新続後撰 春上

新拾遺 春下

風雅 春下

風雅 春下

わ

春風にそのふ梅の花さく　山道赤人

春の雨にみやこうつくしん　菅原道真朝臣

春の雨にぬれてぞ人はとはれける　清原深養父

春の命とは人のなかるらし　家集

春の命さへ人のなかるらし　小大将

春のきたるしるしなるらん　源公忠

春の柴はたゆふ春風にあく　拾遺雑春

春のぬさ雪にまがへて　前大僧正慈円

春のはつ花にみそれにき　前大僧正慈円

春の日の長閑なるにさ　前参議雅経

春の雪も花とぞ見ん　左近大将

彰考館本
底三
彰於
底文
彰考
底三
彰於
底二
彰於
底二
彰考
底二
彰考
底二
彰考
底一
風非
尺
彰考
底二
彰考館本
底文
彰於
底文
風非
底三

彰於
底二
彰考
底二
彰考館本
新上
彰考
非紙
彰考
底上
彰考
新上
彰考館本
新下
彰考
新上
風非
新上
風非
底文
風非
底上
彰考館本
新上

彩於 新下
彩子 霧旅
彩後去 点心
彩拾 秋下
彩子 点二
風雅 新中
彩子 新上
彩子 新上
彩子 点二
彩後去 点四
彩子 点四
彩於 点二

大方元清うれしほうしきと
わくれのりこれやこの旅のゝん
はりもとをのうるやめしし
しをれくる跡原に霧の初風哉
雑ふくまどのりしかこの海
三代集二代集の人とそ
世にもみくまとそ心橋
ちれいて哉ハのけさ夕べ
姫に袖ゝの忘れ草ゆえ
世ゝ者忘ゝ事なくて
もとゝ世ゝうゝ姫ゝ
道中も忘ゝ世ゝ作ゝて

ゝ世ゝもれる名ゝかゝき
ゝ世ゝもふけ山さ秋中山
ゝ武ゝ山あゝんゝ
ゝ桜と庵やゝゝん
ゝ桜ゝ姫ゝ
ゝ松ゝ花ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ

前内公有力
伝生法師
桜香園院入道
関白右大臣
清原定高
道信法師
前大僧正慈鎮
前僧正慈勝
義空回師
津守回助
前大納言民
前大納言
前右大臣

彩於 点一
風雅 旅
彩於 新別
彩於 新春
彩子 春
彩後去 点四
風雅 点二
彩子 点三
彩於 点三
彩於 去上
彩子 点三
彩於 交

ゝ中ハ袋あさまゝ夕ゝ
点ゝ人ゝ
ゝ旅ゝ
ゝ人ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

前大納言定
前大納言兼
修中納言経
津守棟回
良室上人
前京伊長卿
進子内親王
前大納言定
従二成豊
参議陸奥卿
前内大臣兼教
進子内親王

新勅撰 長
新続古 恋四
新拾遺 恋三
新秋下
新続古 長
新続古 恋四
新拾 長
新拾 恋三
風雅 新下
新千 恋四
新拾遺 恋二
新拾 雑上

[illegible]
[illegible]
[illegible]

風雅 恋四
新古今 哀
新古今 冬
新後拾遺 雜上
新拾遺 雜下
新後拾遺 恋三
新後拾遺 雜上
新古今 雜上
新古今 雜下
新拾遺 雜中
風雅 雜中上

とはるるうらやいかるるうらはかなわてもゆく（きつ井ゆうハ
あはれ代にあるてたはかり
かとり晩やなかめ
ちるあれ海のうふ月ひみや
いつかりあはれ春をとうきとて
秋のあらうふ紅葉
ていひみ秋をとうてひてさた
さしはあつうてなつかん
紅葉もあ
位山の高井栄
沼はるんかてをあれ

まつのくさあもうてなる月
まつのき紅をあるとうん
まつ花もうるてなる波
まつのもあれ
まつむ
まつ
まつ
まつ
まつ
まつ
まつ
まつ
まつ
まつ
まつ

従二位宣子
惠鎮上人
山家
前大納言実名
源光行
後豊郎
後戸行親
前関白相
前大納言
藤原為親
紀行春

新後拾遺 恋上
新古今 恋二
新拾遺 恋四
新拾遺 恋五
新後拾遺 恋二
新拾遺 恋一
新拾遺 恋三
新拾遺 夏
風雅 雜下

雜上
風雅 雜下
新拾遺 恋二
新拾遺 恋四
新拾遺 恋二
新拾遺 恋一
新拾遺 恋三
新拾遺 夏
風雅 雜下

雜月のあんをそもあれる
いあ（ハいあるかうあゆ
うるもうるやあはかとうん
ひてもあはやうさんの
ものをあるうさんの
あるのあてあれさも
あるうあるうあ
あるうあるうあ
人いるもあるよりあるくれ
あるあるくあるれいあ
夏あるあ月あるうあ
あるうあるあ

（通前参議
石前参議
高階宗
前大納言
源頼貞
山口斎
法眼
後伏見
後宇多
後醍醐
光明恒
前京極
京極為兼
山田重
前大納言
紀兼

風雅 京二
新古 京三
新続古 京三
新続古 羇旅
風雅 雜上
新続古 京四
新続古 雜中
新拾 京二
新古 京三
新続古 京三
新古 雜別
新拾 京三

なかなかとうもあれかあるまじき
なくてはなりなれば
人いさかりあるべきなれば
かりあるべきなれば
むまれもせずあるべきなれば
これのみにあるべきなれば
うきもいとうもうもきえぬ
あるべきよりこむなれば
あさうちもきたれそなれば
うしろめたく人のけしきもなく
いかなるべき人にてあるべき
なりあるべきなれば

つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの

法二位家子
九条右大臣女
前京兆尹
源光行
源和義
前京兆尹
後鳥羽院御時
藤原定家
永福門院内侍
後宇多院御製
前京兆尹
後嵯峨院御製
後嵯峨院御製
前大僧正慈円

風雅 雜下
新拾 恋四
新古 京三
風雅 雜上
新拾 雜下
新拾 雜上
風雅 雜上
新拾 雜下
風雅 京二
風雅 雜下
新拾 京四
風雅 神祇
新続古 京二

つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの
つのくにの

法二位家子
後醍醐院御製
前大僧正慈円
後嵯峨院御製
前京兆尹
後嵯峨院御製
前大僧正慈円
西園寺前太政大臣
源宣平朝臣
前京兆尹
後鳥羽院御製
後嵯峨院御製
前京兆尹
人丸

風雅 恵三
彩於 恵三
彩於 非
彩続古 新中
彩々 奈
風雅 恵四
彩於 新上
彩々 新下
風雅 新下
風雅 尺
彩々 新別
彩続古 恵四

海ゆかば水つく屍草むす屍
とりてはかへらじと思せば
石清水神にまうでまうでや
いにしへ人のこころをくみ
人の心松にかよはしとりてとく
人をこそ世にやとりて人いとし
春の野の草をつみ
いつかうれしき世にあひぬる
年をへし山の端の月海ゆかば
ひとりもそうにてうるとも
あつて人をうるとも
さてもうれしかりけるかな

まろさうしさこそ
愛宕の寺
まろさあてく
源基時朝
まろ彩おまさえんさ
竜院新
まろ彩おまさえんさ
源俊氏
まろ彩おまさえんさ
源俊氏
まろ彩おまさえんさ
沖家
まろ彩いにしへ
永福門院
まろ彩
加賀
まろ彩ふたれ
長人
まろ彩
左兵衛督
直義
まろ彩
従三位
まろ彩
貴し
まろ彩

彩々 新上
彩続古 新中
彩々 恵一
彩々 恵四
彩々 新中
彩々 非
風雅 尺
彩続古 新中
風雅 恵上
彩於 恵二
彩於 新中

海ゆかば水つく屍草むす屍
とりてはかへらじと思せば
石清水神にまうでまうでや
いにしへ人のこころをくみ
人の心松にかよはしとりてとく
人をこそ世にやとりて人いとし
春の野の草をつみ
いつかうれしき世にあひぬる
年をへし山の端の月海ゆかば
ひとりもそうにてうるとも
あつて人をうるとも
さてもうれしかりけるかな

まろ彩
世にあひ
まろ彩
世にあひ
まろ彩
世にあひ

新続古 歌上
風雅 歌下
新続古 恋四
新続古 恋一
風雅 歌下
風雅 歌下
新千 恋二
新拾 春
新拾 雅
新続古 夏
風雅 恋三
新拾 恋一

かてとしれるも昔は秋の月
うき世とはのがれてふるこころかな
いはせのこれとやこのうらん
留せぬ人の名はのこれ煙
昔みしをけ橋の川水と
あらしさそふ春の夕の波川
思ふものけうとそれはうもむ
をとは嵐あらっりをとふる
在はあるきかたの紅葉
恋はかなるこ人はこけは
春はつ人とれこそあるよ
ものは浦よ見ぬ恋ゆ人

源詮仮
源仲教
儀同三司資
源高回
清輔卿
前参議伊仮
宗尊親王
従二位前摂
清平華法
俊子歌人
進士高倉
藤原清輔

新続古 恋一
新千 恋三
風雅 恋一
新千 夏
新続古 恋一
新拾 中
風雅 雅下
新続古 雅中
新千 恋三
新拾 雅上
新拾 夏
風雅 恋三

海一ふねの名は煙も
如月はさ桜ちるよ
時雨は海は月となるか
ほとときは山ふかくすむ
海葉ちるこの書ものそ
君をそ海ことを知ものし
恋ささの君ものとさ人
らしてはやと忘れ
立ちとむとしてふる川
七夕は逢ものうれ
五月雨は入えはもうて
海はあふとしの七夕

山階右大臣
実方朝臣
前大納言
中納言家持
中大臣文
太政大臣
前大納言公春
摂政
赤染衛門
前中納言隆家
前大納言
河内
曽禰

新板本二　新続古歌二　新千載　新二　風雅　新千　新拾　新二　風雅　新上　新拾　風雅　新上　新拾

いるかは人しるらんかはの
をしまなくてくれてこそ
あはれのかぎりなるなれ
人をいかにかはるなるらん
若むして人はゆきくれぬ
ちりぬるかぜ中絶て
たつ川あれぬ秋の草
おはせぬ思ひしらぬ人
たづねぬ里ぞ
山のくに今とふ月をて
紀は回れあるは貴れ忘れ
あはれ

ゆきかへるあはれ
ちりぬるかぜ中絶て
たつ川あれぬ秋の草
おはせぬ思ひしらぬ人
たづねぬ里ぞ
山のくに今とふ月をて
紀は回れあるは貴れ忘れ
あはれ

僧都信覚　源重氏　郁子　大徴子　平氏流　前内大下　寒方郁子　津守回道　源富秀　人不知　貴し　読人不知　公道卿人

風雅　新拾　風雅　新拾　風雅　新拾　新拾　風雅　新拾　新拾　風雅　新拾　新拾

あるしなせしかやはいかなるあるじ
ちりぬるかぜ
白露ぞ
あはれなるもの
いはれぬ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
あの里
あるじ
ちりぬるかぜ
人ちりて
たづねぬ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ
ちりぬるかぜ

玲泉　馬内侍　閑院　長綱　前大僧正覚慶　御製　前大納言定家卿　初句源実朝　前大納言実朝　源頼義朝臣　院小弁　八条内大臣　八条内大下

風雅
京こ
新後拾
新下
新後拾
尺
新後拾
新上
新後拾
玄上
風雅
非藏
新後拾
京五
新後拾
新上
新後拾
京五
新後拾
婚上
新後拾
京二
風雅
玄上

新後拾
新上
新後拾
尺
新後拾
新上
新後拾
京五
新後拾
京三
新後拾
霧藏
新後拾
京三
新後拾
霧藏
新後拾
京四
新後拾
新上
新後拾
京一
風雅
京五

風雅 友
風雅 恋式
風雅 雑上
彩女 新下
彩女 新中
風雅 恋式
彩後古 新別
風雅 新冬
風雅 恋三
風雅 恋一
彩雑歌 恋三
彩女 恋三

ふる人もなれあるさとにはなれて
人をしのぶとなしなれも忘れず
なかるゝに月をも忘れ庵に慕ふ
恋の月うとみ山人の
よとふ波の人いとるに露
ぬるゝ袖をしぼつれもなく
あはれと思ふ山は姫の名残と
約束なるまれ枕に流すも
うき夢もうるはて思ひ
恋のなる面けうるる月の
思ひいりやあ被沒れうりを見
うき人のいとくるるまゝ

風雅 雑上
彩於 新別
彩女 冬
彩女 表
風雅 友
風雅 恋式
彩後古 新別
彩後古 非俗
風雅 恋三
彩雑歌 恋三
彩女 新下

雪も白う書ふ庵と雪かるる
あ人と山雑風に物うあるそ
ことれしふいはくよりとしはふは
まれけこそ下もまたこそ
秋うて山かたきに鳴
鳥の少れ夕はよそれうてハ
むさは君よ物うふれん
ちるやいふ雪はれ山に秋に松
ふかり人りや雪と思いる
水面城うそうかと忘れ
そはなく雲はりもあくれ地
あれしれ首ハちうとおとして

風雅 雑上
彩於 新別
彩女 冬
彩女 新下

大納言成通
彩後古 新別
彩僧 恋三
彩雑歌 恋三
風雅 恋式
彩後古 新別
彩後古 非俗
風雅 恋三
彩雑歌 恋三
風雅 冬
彩女 新下

雪の山の雲はうるる
雪の人あやふふれちる
人こはるる雪
ものもあるうれ
もこ雪のうりれ
ものこそ
ものもうれ
ものもうれ
ものもうれ
ものもうれ
ものもうれ
ものもうれ
ものもうれ
ものもうれ

大納言成通
彩後古 新別
彩僧 恋三
彩雑歌 恋三
風雅 恋式
彩後古 非俗
風雅 恋三
彩雑歌 恋三
風雅 冬
彩女 新下

風雅 五之
彩絵古羅張
風雅 姫下
彩絵 姫上
彩絵古 姫下
彩子 羅張
彩絵 姫上
彩子 羅張
彩子 姫下
彩子 反
彩絵 五一
彩絵古 雅上

彩絵 姫下
彩絵古 春下
風雅 尺
彩絵 尺
彩絵 尺
彩子 尺
彩絵 五二
風雅 五七
風雅 雅中
彩子 五文
彩絵古 五文
彩絵 五文

彩絵古点文
彩な新中
彩れ点文
彩絵古点心
彩絵古始上
風雅新下
彩れ点文
彩れ始上
彩な点こ
彩絵古新上
風雅点心
彩れ始上

かるみてうあもとみ面新城
ゆらは紙ゆりてみしらへ〳〵の雅と
人とうとうみうしも面新れ
うへのやなれ新よみし人の
うるのせ山むとうきうし拾て
なれ風ゆうはうみ月れうきと
うてみてうとへはうも人と
うやきて歌うけ衣紙ゆてへ
ゆもうけ月よてふとう紙歌て
とうていれうの山れなうれ
紙ゆううれはかれゆみれや
きれうーゆ昔れ面新も

うしれて冬ふれ新ふ
ゆれれ月よ点うき
うれれ月とうへいとみ
うれうれ冬へはうた
うれうれうれ人うし
うれうれ月やうれん
うれうれうれ拾て
うれうれうれ月
うれうれうれ月
うれうれうれ月
うれうれうれ月
うれうれうれ月
うれうれうれ月
うれうれうれ月

帝中納言雅孝
平内侍
中納言雅孝
平宗盛妻
中納言雅孝
如国法師
小町
前参議宗定
桜井宮前
内大臣
法橋顕昭
前参議宗定
中納言雅孝

彩絵古点心
彩れ点こ
彩絵古点文
彩絵古点心
彩な点文
彩な点文
彩な点文
彩な新中

ゆうれて冬る中れ冬て
せうて月源ゆうるて冬れ
ううるてふうれうるへ心冬
歌うれせうてうれ冬れうれ
うへのやあうれうれる冬て
ひうれゆれ桜ーゆうれ麿うて
うれうれ地へゆけうれ人うり
うれゆれうれうれうれうれる

中納言雅孝
法寺四条
法中宮深
乃道部
前参議
源忠義部
四位院参議
故大臣
源和氏

新和歌類句集

ち

新後拾冬　舟つなぎさしみがくれの[illegible]　ちとせ　物語後貫朋

新千冬　塩風よ夕浪たつ[illegible]　ちとせ　正三位隆教

新千冬　折[illegible]　ちとせ　便宜行意

新百冬　[illegible]月[illegible]　ちとせ　後恵法師

新拾冬　冬さしぬれぬ[illegible]　ちとせ　今出川前大臣

新拾冬　深行山[illegible]　ちとせ　中務卿宮尊[illegible]

新拾冬　湊江やあしの[illegible]　ちとせ　前中納言[illegible]

新拾雜上　みしぬ[illegible]　ちとせ　左近衛中将基氏

新後拾冬　[illegible]月[illegible]　ちとせ　等持院贈左大臣

新後拾冬　風さゆる[illegible]　ちとせ　源時熙

新後拾遺 冬
いつしかはまさけかすみ立あすんとそれ河原よ
新後拾遺 冬
霜とそ花数やさしてかすみ立みてゝ
新後拾遺 雜上
あすの風かすみて山とゝ月をまもるき堤なは
新後拾遺 雜上
さゝのくるかこ風ゝ夕ゝ松原こてて
新後拾遺 冬
如花数よ称さあてきけゝ雪ゝ風ゝ
新後拾遺 冬
風よゝ雪ゝ乃花とゝ山ゝ家と
新後拾遺 春
ゝ風海ゝ雪ゝ乃数よあれ分ゝ久ゝ
新後拾遺 春
花ゝ武ゝゝゝゝ久ゝ百年とゝ十かゝ
風 恋二
津ゝ国ゝ乃ゝ人ゝ西ゝ乃数ゝ乃
風 恋下
春如ゝ山ゝ武ゝ乃ゝ
新後拾遺 雜上
ゝ乃ゝ武ゝ乃ゝ数ゝ乃ゝ
新後拾遺 雜下
ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ武ゝ乃ゝ世ゝ乃

ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 住吉神社歌 第七段大伴
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 第六段大伴 長連
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ ゝ人ゝ今ゝ
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 津守国豊
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 大江親言
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 御製
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 第六段 藤原
ゝ乃ゝ松原 俊同之
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 住吉神社歌 第六段
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 源俊頼
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 白市男人
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 光国卿

新拾遺 恋下
あすの風わすれ吹かいたゝめ風さゝ
新後拾遺 冬
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 住吉神社歌 第四段 藤原
新後拾遺 雜上
如あすの日数ゝ乃ゝ数ゝ乃ゝ風ゝ
新後拾遺 恋下
ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ数ゝ乃ゝ
新後拾遺 恋之
ゝを乃ゝ人ゝ乃ゝ数ゝ乃ゝ
新後拾遺 恋下
ゝ長ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ数ゝ乃ゝ
風 恋下
ゝ人ゝ乃ゝ数ゝ乃ゝ
新後拾遺 雜上
津ゝ国ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
風 冬
ゝ乃ゝ外ゝ西ゝ乃ゝ
新拾遺 冬
風ゝ乃ゝ
新拾遺 雜上
ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ
新後拾遺 冬
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ

ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 第六段 住吉神社歌
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 第四段 藤原
ゝ乃ゝ人ゝ乃ゝ 津守国博
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 紀貫之
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 第六段 住吉神社歌
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 人麿
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 三条院御歌
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 第七段 藤原長倫
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 惟宗孝言
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 後鳥羽院
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 源頼氏
ゝ立ゝ野ゝ乃ゝ 人麿 住吉神社歌

彰後右冬
風さむしとてとけて酌風の人あるあり漢
彰後右冬
山ちとさとあるいはさとあるを野
彰後右冬
いふん能を見とうに世ちるさとて清
彰後右冬
さとひろ野乃あるいはれてみえて新より
彰後右冬
山姫角あるいは思やかるんあるもなちハ
彰後右冬
玉柳かなとに枝角よりいれいうひとこ
彰後右冬
空てふ小鳥をこうれうあるあ
彰後右冬
鳥をこ子鶯りいうるうるよ思るあ中れ
彰後右冬
姫房風ひうに紅の梅乃へて少へとこ
彰後右冬
さ寺志ひにみさ見やうるさよるる明つるる乃
彰後右冬
志ちるを志るあ月れしるしるに家
彰後右冬
神るさやるるに見ひるるるて
彰後右冬

ちるあれ
ちるさるる
ちるるる
ちるるる
ちる

新後拾賀　花乃色ハ濃しとそ思ふ百敷や大宮人の
風賀　九重にみてる日の光のかゝやくを
新拾賀　面影乃めくるしかりし春の夢
新後拾賀　おさ海老乃わかれ猶風ふきていろ〳〵なる
新拾賀　紫乃庭よみ吉とかたそへて
新拾恋　百敷よりかけてそ色そまさりける
新後拾哀　思ひよ花とかるゝ春の山雪に沒とも
新後拾雜秋　居ながらなふる思ひなをてゆ山乃
新後拾秋上　ふもとの紅葉井の月をみるかな
風秋下　秋乃あ月日とゝ乃　九重にてゝ
風非藏　思ひめ一夜乃ちきりあれハ神乃玉井と
新拾賀　わる君ハ人とかわ丸とみるゝ
ちよ乃ゝ
ちよ乃ゝ
ちよ乃

彰考館
底本

花さそふ風にあらそふ人の心かな
せめてのこころの花にあらそふ御階の桜
彰考館
底本

風にあらそふ花のうつろひ
彰考館
底本

みな人の心にしらぬ山の花
風
底本

之春とはいへども十の境にて
彰考館
尺

淵も瀬もかはらぬ世にも天の川
彰考館
秋上

忘れぬ人の命にしたがふ
彰考館
底本

なにはの浦に二世の
風
底本

世にかはらぬ人の心にしたがふ
彰考館
底本

あはれなる海をさすふねにはよ
風
底本

うれしかりしあはれなるよこれをこそ
彰考館
底本

たれかのまことのすがたの
彰考館
底本

ちるさくらかな　保延五
ちるさくらかな　前大納言
ちりつるかな　平貞文
ちりぬるかな　二条院讃岐
ちりぬるかな　慈覚大師
ちりぬるかな　贈後三位
ちりぬるかな　源棟義
ちりぬるかな　従四位上藤
ちりぬるかな　前大納言
ちりぬるかな　徽安門院
ちりぬるかな　院一条
ちりぬるかな　白花山院
門大臣

彰考館
底本

和歌の浦の水の底にしづむ
彰考館
底本

うかびけるかな　前後右
彰考館
底本

かなしきかな　彰考館
龍

津の国の今はしらなみの
彰考館
底本

山川のかはのしらなみ
彰考館
尺

いとはしかりしかなしかりしかな
彰考館
底本

きえぬべきかな　前後右
彰考館
尺

赤地山をえぬれば
風
賀

河内の今はこそ君よ
彰考館
底本

河内の今はこそ
彰考館
底本

ぬるかな　彰考館
底本

わかなかりしかな
彰考館
底本

ちりぬるかな　前大納言
ちりぬるかな　前大納言
ちりぬるかな　小宰相
ちりぬるかな　橘為村
ちりぬるかな　権律師性空
ちりぬるかな　前中納言基俊
ちりぬるかな　前参議為平親王

新後古 忘之
新後古 忘五
新後古 忘四
新千 忘二
風 秋上
新千 忘二
新拾 忘四
新拾 雜
新後古 忘之
新後古 忘四
新後古 忘四
新千 忘之

世はとはかうく
神よりは後のよにはあらじ
をぬけ月をそ東のみてなくさしぬ
ぬれしよ変はてはの山のやまれぬ
多くてかりぬ物はかりの秋とわさぬ
あしりのふかくまてはの月もちぬ人の
称の夜はあてみつも変りて行つるの
なりのそあすの春をちかのよもの花も
うつまてのあはよりへてうれ物はかの変乃
新しきまはよりの春まはらねの
うはりの人のをもの中はの
下級のまるこの年はのまはの

いきりそんん 二品法親王 光誉
いきりなの花 藤原為氏
いきりなの 藤原文信
いきりかも 源為理
いきりの 源義詮朝臣
いきりの 足利尊氏
いきりなる 桜井御子 宗忠母
いきりの 赤松則祐
いきりの 後宇多院御製
いきりの 後伏見
いきりの 日野俊基 前参議大臣 後後拾遺
いきりけり

新拾 忘二
新千 忘之
新千 忘之
新拾 忘二
新拾 忘四
新千 忘五
新千 忘四
新千 忘之
新拾 忘五
新後拾 忘二
風 忘一
新拾 忘二

あの事にいとあはかくなれ
あひそのほとをはをそれ
つまこしたはあの夜はもはくの人の
さとをそのなのしをそつれ
はは井にはさりそのあの人のそつ
ちはあるはは小舟にまそ
うとそなふ西新乃はるんみ
紛はとなくさとかは
いりかをうるはは世よかり
一るはをはそせは伝よなるの
をはつるは世をはよみ変や人をゆ
あの事はかはは酒乃はあはは

いきりけり 伴周清
いきりかれ 大江貞重
いきりの 大江為房
いきりの 法印定円
いきりの 左衛門佐伊光
いきりの 野宮定基
いきりの 菅原景綱
いきりけり 弾正少弼有親
いきりの 源仲正
いきりの 藤原為世
いきりの 藤原為定
いきりの 大納言公重
いきりの 暁法師

新拾 恋三
いかりとも思ひたえぬるなかなれや
なほ人をなげくまでに成ぬる　源信武

新拾 恋四
吹風は花ちらすなれとしのぶ迄
かゝる糸桜なれしの梢やわが中に
なほ人をなげくまでに成ぬる　宝篋院殿左大臣

新後拾 恋四
なほ人をなげくまでに成ぬる　藤原忠秀

新後拾 恋三
なほ人をなげくまでに成ぬる　藤原為世

新後拾 秋上
なほ人をなげくまでに成ぬる　藤原為世

風 恋一
なほ人をなげくまでに成ぬる　後八条入道前四位

新後拾 恋四
なほ人をなげくまでに成ぬる　太上天皇

新千 恋三
なほ人をなげくまでに成ぬる　左兵衛督忠義

新後拾 恋三
なほ人をなげくまでに成ぬる　従二条流経

新後拾 恋二
なほ人をなげくまでに成ぬる　源和氏

新後拾 恋二
なほ人をなげくまでに成ぬる　前権帥定宗

新拾 恋三
なほ人をなげくまでに成ぬる　惟宗行冬

新後拾 恋四
なほ人をなげくまでに成ぬる　前権帥実忠

新後拾 恋一
なほ人をなげくまでに成ぬる　前権帥永親

新千 恋二
なほ人をなげくまでに成ぬる　前大納言秀氏

風 恋三
なほ人をなげくまでに成ぬる　大炊御門家

新拾 恋二
なほ人をなげくまでに成ぬる　菊原清宗

新拾 恋四
なほ人をなげくまでに成ぬる　中納言為相

新後拾 恋五
なほ人をなげくまでに成ぬる　源具親

風 恋二
なほ人をなげくまでに成ぬる　左大臣経教

新拾 恋三
なほ人をなげくまでに成ぬる　藤原為信

風 恋五
なほ人をなげくまでに成ぬる　菊葉清宗

新拾 哀
なほ人をなげくまでに成ぬる　菊原相如

新千 恋四
なほ人をなげくまでに成ぬる　境空上人

新後拾 恋三
なほ人をなげくまでに成ぬる　前納言英教

なほ人をなげくまでに成ぬる　一条煕門院

新後拾 恋三
新千 恋三
新拾 雜
新後拾 雜
新千 神
新千 神
新拾 恋三
新千 恋一
新後拾 秋下

逢坂の人相思へとやひき捨てしふる人の
なほ引てうゐをぬるとは思ふまじ
ゆふ立の雨おびただしくふりて
川さみの水の底やしるらん
君が代はいかばかりとか
星やしるらん神のつらとは
ゆきかへるとしは位置
かく夜もさこそはれぬ年とてなれ
世わたりかねてやとしもゆく

百六十三首

ちぎりきん 仮名序 業平
ちぎりをぬる 業平 後撰
ちえの下 伝 良岑宗貞
ちえの下 後撰 僧正遍昭
ちきりきな 伝 在原業平
ちきりきな 後撰 藤原常昌
ちぎりきな 古今 読人しらず
ちぎりをぬる 等 拾遺 貫之
ちぎりをぬる 拾遺 僧正遍昭

風 雅下
新拾 雜
風 恋二
新後拾 物名
新後拾 恋五
新拾 恋一
新拾 雜
新千 雜
新千 恋一
新千 恋二
新今 恋三

ぬ

愛のてをとまりたる庭なれ
ぬるまてうゑし花の白露のおくとはいへ
いたてせはるるみとなるやうん
我神はまうてよたてかくせるいそうさあし
かるとやいふるまはしかしの神の
ぬれをみよ志ろ人のかりのうんたる
うれをみよ志ろ人のきりまとかて
たてたる如ふるとしを世をふる
ゐるとなれる君なりしかしこ
ぬるとなれる君なりしかしこ
ぬるとなれる君なりしかしこ
ぬ

新千 恋三
新千 恋五
新千 雜上
新古 雜上
新千 雜中
新千 雜下
新千 春
新拾 恋二
新拾 恋二
新拾 恋三
新拾 恋五
新拾 別

雪あはれ降つ重なる冬の月
ちさわさんあさに采れ菜摘れ見ゆ
ちるれりてこのてり紅葉かてて
里ちとしかりさとて乃秋色よりこそ
人ちれて色とこそ松色ぬとてはと
事にそく思ひとまてはいつとも
かへるべき所れは信山乃月をとて
とはつてなくさむやそれ月あらと
あの事はかりに秋衣さむ乃よ袖ぬよかまて
うむ事ちるすの袖ぬてあ秋はさへ
面けはぬ乃よ乃つてさとてうとぬ月よ
会あつはめとり色へとかとてなりさあつ

如て袖乃 風乃秀義
如て袖乃 拾遺集作者
如て袖乃 赤乃院四製
如て袖乃 中務乃宗秀 歌
如て袖乃 後鳥羽院
如て袖乃 後人不知
如て袖乃 左大臣乃長兼
如て袖乃 後鳥羽院製
如て袖乃 源宗光
如て袖乃 坂上成茂
如て袖乃 前大納言徳
如て袖乃 法中実清

新拾 葉
新後拾 恋一
新拾 恋三
新拾 恋五
新拾 雜下
新後 冬
新拾 羇
新千 恋四
新拾 秋下
新拾 雜下 脱
新千 恋二
新拾 秋下

風さむ乃砂屋乃松美さあてら波よ
あの事はなとかさ屋風さ屋原帰さとて
川乃に乃やかあてかとの乃と紛よつさてて
と海乃およ色とやさ衣うあ乃と
たちの乃ちこいうり成衣ぬてこまて
雪ちつる孫さあ乃家のさ歌対面ちつる
里ちとこ乃れうあまの袖ぬ波乃沢孫さ
ちとこてうかきこの水乃苦信さかうく袖ハ
ぬ衣こ乃さこ人乃川ちとこ雪ちとこ
我さ度ぬこ人川ハあつとうやとこ沢いとふ
てうこてつてうてへあ年のこふ海のうまと
ちとれハこ海さとハ乃奥山乃紅葉ぬ乃

如て袖乃 十佛法師
如て袖乃 小槻兼治
如て袖乃 宝篋院殿 左大臣
如て袖乃 紀貫長
如て袖乃 読人不知
如て袖乃 前参議高定
如て袖乃 桜町中納言
如て袖乃 太宰帥 仁敦親王
如て袖乃 神祇伯顕仲
如て袖乃 後二条行家
如て袖乃 後法性寺入道前関白太政大臣
如れ袖乃 菅原清正

風 春上
いとゝためしなれしの梅とゝ
ぬれなけるかな 人丸

新千 恋五
うゝ〻しなれ人〻とうゝて
ぬれぬ袖かな 摂津

風 旅下
ゆくとしをしらぬなのゝ波のあなる
ぬれてゝ春の 上西院兼

新千 旅中
思ひとゝ春の雨ゝ松山のなみ
ぬれてゝ春の 大納言朝光

新拾 恋三
もれなく人の袖をぬれて
ぬれぬ袖かな 後鳥羽院

新千 雜
袖をぬれぬ袖とぬれぬ
ぬれぬ袖かな 頼基卿

新拾 恋二
うゝしてゝ君に恋ゝ
ぬれぬ袖 宜陽院内侍

新千 恋五
袖をぬれぬ袖
ぬれぬ袖 白川院女房

風 冬
ぬれぬ袖とぬれぬ袖
ぬれぬ袖 大宰大弐藤原

新拾 恋
ぬれぬ袖とぬれぬ袖
ぬれぬ袖 入道前太政大臣

新拾 旅下
ぬれぬ袖とぬれぬ袖
ぬれぬ袖 中務卿親王

新拾 旅下
ぬれぬ袖とぬれぬ袖
ぬれぬ袖 任家入道前太政大臣

新拾 旅下
津の国の三ゝ四ゝ川の水上にはゝるゝみつれ
ぬれぬ袖 後鳥羽院

新拾 秋上
物の思ひの原ゝ白ゝ
ぬれぬ袖 桜井従三位

新千 秋下
初雪ゝとなりゝ白山の峰風ふけ
ぬれぬ袖かな 深寺回冬

新拾 春上
なれゝ初ゝ風ゝ春ゝ
ぬれぬ袖 中務卿具平親王

風 神祇
わきゝ見ゝ月ゝ見ゝ白ゝ
ぬれぬ袖 前大僧正慈鎮

新拾 旅上
新ゝ宮ゝ川ゝ
ぬれぬ袖 従三位邦省親王家廿首

五十三首

を

彩後拾 祝中
なにはづの御代の初春の花をみるとて
三善為康

彩後古 雜下
ふるさと荒れて井のうへの草の露の
とはぬ人にぞ問はれける
雅世

新拾 恋上
金風吹かぬ日もなしとは思へども
なほ秋萩の露ぞ乾かぬ
前大僧正慈円

新拾 春下
雲の根に消ぬ日もなしとは思へども
なほ秋萩の露ぞ乾かぬ
忠房親王

風 旅上
風かをる梅の花の春の夜の
とこはなつかしき宿の山
菅原為兼

風 秋中
雁なき月の新たなる秋の山
なほ山里の宿の山
西行法師

新拾 秋上
山里は宿とは思へども人を問
ふてとはぬ人の山
雅経卿

彩千 秋上
ふるさとは荒れ果てぬ秋の風
なほ荒れ果てぬ人の山
延政門院御製

風 旅下
ふるさとは荒れ果てぬ秋の風
なほ荒れ果てぬ人の山
基氏公朝臣

彩拾 尺
もえかれる野辺の草の夕露
なほ荒れ果てぬ人の山
惟方

風 雜中
人めもる荒れ果てぬ山の秋の
なほ荒れ果てぬ人の山
大炊御門経頼

彩後拾 雜春
みなれ川なほ澄まずとも夏の来
ぬ日の水やなほ冷えて
瑞子内親王 家宰相

彩拾 秋下
燈風を吹きしぼりて今よりは
なほ冷えかはる夏の夜の月
延政門院御製

新後拾 雜中
うらいつをすめばなほまさる山里に
なほ冷えて見る夏の月
太宰権帥為経

新後拾 雜上
妹背山とは名のみ森の下を
なほ冷えまさる夏の月
賀茂重久

風 冬
さしもなほ冷えまさるとは
なほ冷えまさる夏の月
永福門院

風 賀
吹風は枝をもつて万代と
なほ冷えまさる夏の月
皇太后宮大夫後成

彩後拾 冬
さゆる夜に月はいまだ
なほ冷えまさる夏の月
為家卿

彩拾 雜秋
みつ雲はいつ消えぬ
なほ冷えまさる夏の月
前中納言定房

彩後拾 秋上
風さしも入江の月の夜寒
なほ冷えまさる夏の月
為房卿

風 冬
月影となるとは知らで
なほ冷えまさる夏の月
儀同三司重基

新拾 雜上
入る山の月の末を遥かに
なほ冷えまさる夏の月
権大納言公宗

秋風よ月の影の山の
なほ冷えまさる夏の月
宗尊親王

彩指 秋下
あり明の山ぢたかくなる月よりはつて風の
人しづかなるこよひなれどもとをてわつれぬの
彩続古 恋之
吹風のさゆるまつ夜は月かげ
風 冬
冬きぬと山の紅葉もしぐれあらしの風の
彩続古 冬
川じもにまつ氷はなれぬ河ぶの舟
風 雜中
彩拾 秋下
月をまちて山のあなたの秋の
彩拾 雜秋
なほ入江あれはなほ澄みて風の
風 交
音かはる月の雲井にいとはなれ
風 雜中
松の色はあらしの秋よりこそ
新千 歌
思ひ入れ山ぢ山ぢの谷川の
彩続 恋之
なほさらふ袖の涙の雲ぬきの
風 恋五
夕暮の空吹ふく風のつれなさ

とをとけり 中納言為忠
とをとけり 安原為之卿
とをとけり 芳滝利花院
前関白
とをとけり 法下宣為
とをとけり 後徳業行
とをとけり 雪の夏宣
とをとけり 後戸成豊
とをとけり 進士門聖
とをとけり 後光院入道
前関白
とをとけり 三条実連
とをとけり 太政大臣為相
とをとけり 後藤原氏

彩拾 冬
いつとなくやはらぐ冬の夜の月
風 恋二
はるかなるこよひなりけりあけぬれば
彩拾 雜上
なほ雲井なるはつかりの声
風 恋上
ふれしとはなほ雲風ふかなと
彩拾 恋三
彩続 恋四
彩拾 交
新続古 冬
彩千 恋一
風 雜中
彩拾 雜上
彩拾 交
人の心はなほ雲風のなかりしに
うらてふ月を吹ふく山風
ふかぬ夜はあるかの中にてあきの月
みそぎしてうきよはのこるしるしかな

とをとけり 永福門院
とをとけり 貞成親王
とをとけり 源氏孫
とをとけり 石命法師
とをとけり 新少将
とをとけり 頼人右知
とをとけり 神祇伯顕仲
とをとけり 中納言為忠
とをとけり 後二条為信
とをとけり 二条法皇 光明
とをとけり 為冬朝臣
とをとけり 今出川前内大臣 光誉

彩指 文
彩指 冬
彩後指 雜上
風 賀
新千 雜上
彩後古 冬
彩指 冬
風 文
彩千 文
風 長上
風 雜中 秋下

かれ行ものとへて梅やとりあへず春の風乃
爰にてなほ乃河面ふきてさしつ花よ
秋ぬれてい衆やのさよもすがら乃人乃
及つきぬ月をしたてあるあ月もせぬ
あ秋乃宮ま松えよ吹風しよ白雲乃
衆をすう光吹さ深の衆しきやくわれて
谷川やしもを氷ふさしをひなうれたる
異なるく山れくまい月れいもれ月やとあも
ゝてやまきやれなけ鄭の卯の宮かさま
たうきをかれ乃ふれ梅柳をのれをあれ
花ゝををさうゝかをれようく色をふ
山をを河面よれ宮秋日ふうるゝやうれ

をとふ花下さ　赤染衛門
をと風さうかり　前大納言公任
をと風さうかり　藤原為家
をとをうろ　藤原為家
をとをうろ　藤原為家
をとわれて　後鳥羽院
をとわれて　後鳥羽院
をとをうれ　後鳥羽院
をとをうれ　後鳥羽院
をとをうれ

風 冬
山なれば雷のひゝかれてとて冬ゝ日かな
とゝ乃里 西園寺入道 前右大臣 前左大臣 太上天皇

新後拾 秋上
吹ゝまてゝ見えはこゝ〳〵志ゝ賀の浦
とゝの乃さと 前右大臣 前左大臣

風 夏
風波の田舟のさゝ〳〵さゝて入日のかゝれる
とゝ乃松ゝ 太上天皇

風 雜上
夕ゝ雨ゝ一しきゝにけりひてきれるかとゝ
とゝ乃松ゝ 前右大臣

彩千 雜下
引人の袖ゝ吹ゝ〳〵すさまゝ〳〵ゝ
とゝ乃ゝ 前大僧正 慈鎮

風 去下
みゝれてゝくゝれ乃ゝ〳〵ゝ
とゝ乃ゝ 西園寺入道 左大臣

風 去下
さゝゝゝ山下水とせゝ〳〵てゝ
とゝ乃ゝ 西園寺入道 儀子門院

新後拾 秋上
天津ゝ乙ゝ乃ゝ〳〵ゝ
とゝ乃ゝ 恒徳公

風 去下
うゝみゝ〳〵山ゝゝ乃ゝ楊ゝゝ
とゝ乃ゝ 大納言 往信

彩後拾 夏
なゝゝとゝ去ゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 仁和寺 前右大臣

風 夏
わゝゝ〳〵ゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 西園寺入道 前内大臣女

風 天敬
法乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 前中納言 法成寺入道 関白太政大臣

新後拾 秋下
さゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 大納言 往信

彩後拾 秋上
とゝ乃ゝ山ゝゝ
とゝ乃ゝ 前右大臣 海

彩拾 天
雪ゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 前大納言 忠季

新後拾 雜上
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 宝篤院 昭左大臣

彩拾 冬
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 山ゝ 平貞時 前右大臣

風 冬
とゝ乃ゝ山ゝ
とゝ乃ゝ 前大納言 為家

新後拾 冬
すゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ山ゝ 前大納言 為家 伊達 前右大臣

新拾 尺
なゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 前大納言 往信 後伏見院 伊

彩千 冬
さゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 鴨祐夏

彩拾 冬
今ゝとゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 前大納言 忠良

彩後拾 秋上
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 後二条院 隆

彩拾 旅
なゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝ乃ゝ 人ゝ

新續古 雜上
新拾遺 冬
新拾遺 冬
新千 雜下
新續古 衣
新拾遺 秋下
新千 恋三
風 雜下
新拾遺 秋下
新拾遺 雜秋
新續古 冬
風 冬

行歩沛
勝俊僧都
八条前太政大臣
大納言朝光
西行法師
平経盛朝臣
永縁法師
後鳥羽院
慈円僧正
源実朝
卜部兼教朝臣
菅原為長朝臣

風 雜上
新拾遺 秋下
新拾遺 雜上
新千 秋上
新千 衣
新拾遺 雜下 雜
新拾遺 恋五
新拾遺 離
新拾遺 秋上
新續古 離
新千 冬
風 神祇

大江千里
伊勢大輔 御製
大江忠房
衣笠前内大臣
源重之朝臣
忠見
藤原為家朝臣
大僧正行尊
春後
書写聖
藤原懐通朝臣
度会延佳

新拾遺
秋千
新千載
秋下
新続古
雜上
風
新拾遺
雜秋
風
長上

清原為忠
八条二品親王
法守
西行法師
藤原俊成
瞻西上人
俊頼朝臣

百九五首

わ

新拾遺
哀
新続古
秋下
新続古
雜中
新千
雜
風
長下
新続古
雜上
新続古
雜下
風
雜中
新続古
恋三
新続古
雜

わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは
わかれてのちの世にはいかなる世にかあはむとは

藤原家隆
後鳥羽院
太宰権帥
為経
源頼政
藤原定家
藤原俊成
宗尊親王
宝治院殿
左大臣
橘以長

風雅
風雅下
新千載
新後拾遺
新続古
新拾遺
新千載
新後拾遺
新続古
新拾遺
新千載
新後拾遺
新続古
新拾遺
風雅
新千載

月はみえぬ世を人はたのめてもあかしかねたる
ことさうの日数はつもりて婦はたのみをかけてあ
ぬ月のかずをあらそふ姿にかはれて人の
をはるとはいつもうれしかるべきを孫もうあ
なかりしとおもふもうあるかなしさはいかに
さきをはなれぬせまてはつらし人の
よはつ孫よりてはなりてはあり
いかてはあるへきなれ
おつとしてはつさをかふるまてはさてはあ
ぬすちはあをたのしてあやうあるへき
ぬそうれいそうはをもてあるへき
ぬそうとはあはてはさるあはるき

ワれかり名　民部卿定
ワれかり名　藤原長能
ワれかり名　平行氏
ワれかり名　後二條院中女
われかり名　春海親清
ワれかり名　飛鳥井雅世
ワれかり名　後鳥羽院
ワれかり名　後人の和
ワれかり名　源俊氏
ワれかり名　藤原隆家
ワれかり名　公忠朝臣
ワれかり名　中宮定子
ワれかり名　中宮定子母

新後拾遺
新拾遺
新千載
新後拾遺
新拾遺
新後拾遺
新拾遺
新後拾遺
新千載
風雅
新上

ぬ月はあはれ世のたのしかの命をかけまれ
思へはあはれ月はあさましたらはてへき
ぬ芝の庵と消のはあはれやかれ
こしかりなりとあはてはしんあはへ人よ
うとへて苦しとあはれはみをはれ
なりはよはあはしはあるあはのはとはは
かはよはたはしはあはやめあはれはは
猿人のよこはあはう山ちえて月ふをしく
第一へはまはあはあはしはつまはあ
きあはよはあはしはてはかはきはて命はは
はあはあはあはるへきはとはは
ぬはあはあはるへはとはは
ワれかり名　多武峯少将
ワれかり名　中宮定子
ワれかり名　後鳥羽院
ワれかり名　宮内卿
ワれかり名　惟宗行忠
ワれかり名　枇杷皇太后宮
ワれかり名　枇杷皇太后宮
ワれかり名　中納言家持
ワれかり名　菅原孝標
ワれかり名　中務卿宮
ワれかり名　天暦御製
ワれかり名　宗尊親王

新拾遺 雜春

新続古 春上

新千 春上

新拾遺 春上

新拾遺 雜春

新続古 春上

新続古 春上

新拾遺 春上

新拾遺 春上

新拾遺 春上

新続古 春上

新拾遺 春上

新続古 春上

新続古 春上

風 春上

新千 雜上

新拾遺 春上

新千 春上

新千 春上

新拾遺 春上

新拾遺 春上

新千 春

新拾遺 春上

新続古 春上

風 春上

はるのきてつむ　拾遺 春上 長兼

はるのきてつむ　中納言為家

はるのきてつむ　藤原為家卿

はるのきてつむ　藤原為氏

はるのきてつむ　源重氏

はるのきてつむ　中院入道前右大臣

はるのきてつむ　権中納言為世

はるのきてつむ　参議雅有入道

はるのきてつむ　藤原為氏

はるのきてつむ　藤原為氏

はるのきてつむ　加賀左衛門

はるのきてつむ　藤原為信

はるのきてつむ　従九位藤原四方

はるのきてつむ　従二位家隆

はるのきてつむ　藤原為家

はるのきてつむ　法中実性

はるのきてつむ　御製

はるのきてつむ　従五位下左近

はるのきてつむ　後人麻呂

はるのきてつむ　藤原朝臣公業

はるのきてつむ　藤原為家

はるのきてつむ　藤原為家

はるのきてつむ　藤原為家

はるのきてつむ　藤原為家

はるのきてつむ　藤原定嗣

はるのきてつむ　源頼

はるのきてつむ　源頼

彩拾 忘一
あり 鳴乃おと井の池乃ゐもれ水
山落入乃 前大臣

風 春上
吉野の雪ハ消なから川の水
源俊頼朝臣

彩千 衣
あるとてなるしハ春の山人
良宣上人

彩拾 衣
あめ降ハ雪ハ消なるとしり
捷徳天皇

新拾 忘四
ながめ侘ぬ雨の音かいかなる
捷徳天皇

彩拾 雜中
秋の月ハ雲ハ晴ぬ
前大僧正慈円

彩千 忘二
ひとりあるとこ忘ぬ
前大僧正慈円

彩千 雜中
年へ乃ち松ハ老ぬ
捷徳天皇

彩拾 雜上
さてもなれ吹ハ花の波ハ
捷徳天皇

彩拾拾 冬
春ハ梅の花の咲ハ
捷徳天皇

風 雜下
ハ乃ち消なる
源俊頼朝臣

風 雜下
つ乃ち消なる
捷徳天皇

風 雜下
ハ乃ち消なる
捷徳天皇

風 雜下
ハ乃ち消なる
捷徳天皇

風 雜下
ハ乃ち消なる
捷徳天皇

風 雜下
ハ乃ち消なる
捷徳天皇

風 雜下
ハ乃ち消なる
捷徳天皇

風 賀
かきつらねて乃ち消なる
平久時

彩千 冬
ハ乃ち消なる
大泉前司改 大臣

新千 雜上
ハ乃ち消なる
御製

新千 雜中
数なるハ我ハ乃ち消なる
前後遍照

彩千 雜中
ハ乃ち消なる
惟宗光範朝臣

彩千 雜中
ハ乃ち消なる
法皇御製

新千 雜中
我ハ乃ち消なる
華林院内大臣

新千 雜中
乃ち消なる
華林院内大臣

新拾 雜上
ハ乃ち消なる
示隆上人

新千 雜中
今ハ乃ち消なる
源戸行氏

彩千 雜中
年ハ乃ち消なる
花園院御製

彩千 雜中
ハ乃ち消なる
華林院内大臣

彩千 雜中
ハ乃ち消なる
信性法師

新拾遺 雜上
新拾遺 雜上
新拾遺 雜下
新拾遺 雜下
新續古 雜中
新續古 雜中
新千 雜中
新千 雜中
新續古 雜中
新續古 雜中
新千 雜中
風 雜上

わかつ人 後人の知
わかつ浪 一無法報と寛弓
わかつ浦なみ 拾遺雜春
わかつ浦なみ 二條院讃岐
わかつ浦なみ 家隆續後
わかつ浦なみ 拾遺雜恋
わかつ雲 嚴島院一宗
わかつ浦松 後人の知
わかつ松 後二條殿
わかつ松 よし人の知
わかつの浦人 法下寂恵
わかつ原 拾遺雜春

風 志之
風 志二
風 藏
風 志一
新千 神祇
風 冬
新續古 志之
風 秋中
新拾 志一
新千 尺
新千 雜中
新拾 志二

わかつかゆ 後人の知
わかつ人 永福門院
わかつ里 家隆卿
わかつ山 拾遺雜春
わかつ国のあ 拾遺雜中 紀貫之
わかつ山 賀之
わかつ衣ゆ 家隆卿
わかつ山 後拾遺恋
わかつて 人丸
わかつ秋 拾遺雜春
わかつ浦 家隆卿
わかつ浦 家隆卿
わかつ分 よし人の知

新後古 恋五
新後古 雑上
彩千 恋二
風 恋二
彩千 恋一
新千 春上
風 雑下
新拾 賀
新後古 神祇
新拾 慶
彩拾 哀
風 恋三

春かすみ たちわかれていろもかをれとも
月の秋 雲なき月と ひとつにそ
ふる川海の ふるさとに 出る舟人 月をこそ
いとまもなく ひかれぬる
あさぢふの をのの しのはら
忘れぬる 人の心の 花の上に
百敷やみ 雲ゐ行く 月のかげ
松ゆえや 万代 ふるとも
神路山 ちぎりて 栄えぬる
吉野川 ながれ ながれて
つもりし 雪の 消えぬる
あしたの 人の 忘れ

わつ為朝 家院安芸 左近
わつ為朝 卜部兼忠
わつ為朝 よりとも 知
わつ為朝 赤染衛門
わつ為朝 人丸
わつ為朝 崇徳院
わつ為朝 今出川院 近衛
わつ為朝 実朝 左大臣
わつ為朝 後鳥羽院 宮内卿
わつ為朝 藤原為家
わつ為朝 花園院御製
わつ為朝 後二条院 内侍

新千 尺
新千 雑下
新拾 雑中
新後古 春
新後古 雑中
新後古 雑中
風 雑下
彩拾 春下
新千 恋三
新千 雑中
新千 雑下
新拾 尺

はるかなる 雲のかなたに 舟はてて
おもひ世を 出る月よ 出でぬ
雲のてこそ 花の春 ひとしく
春の風 ふきぬ 月の 花
月ふる 雨 ふる 世を 出ぬ
ふる人 ふる 思ふ なれ
思ふ 春や 雲のうち 世
春ても 花と 春 末 春
思ふ人 思ふ 世 ふる 花
春ても 世 ふる 花 ふる 月
うとく ふる 春 春 ふる
春の ふる 月 ふる 月

わつ為朝 藤原景綱
わつ為朝 陳之和
わつ為朝 戒仏法師
わつ為朝 朱雀院御製
わつ為朝 後鳥羽院
わつ為朝 前大納言 兼宗
わつ為朝 中務卿宮 親王
わつ為朝 藤原定家 卿
わつ為朝 八条院高倉
わつ為朝 中宮藤原 仁子一女
わつ為朝 後鳥羽院
わつ為朝 後嵯峨院御製

風雜

彩後拾雜上

風秋中

風雜下

彩後拾雜上

新千雜上

風秋中

風雜上

新拾秋下

彩拾雜秋

新拾秋上

吹ものとてえてもしがらぬ秋ぞうつりゆく　来て分る新
なる事かよくあれ元稙ならで世をうとく行へき
如月山よりこぬる月をみるやせいの世界
花ちりて月にうもれぬ世なりとあはれ知
紫式部こいかよ人の花やあれいろ月
雜波ちこれてゆくこれやさたかの海人
宗尚月福光月の入方よあらしとやふ
ふとりの入日の新よ数みえてをちかた
かふ河霧煙乃山紅葉ちらみ宮みえて
晴やらぬあけの月光ちにつるそみれ
ゆよ月乃雲晴なてなれいとぬゆ
くるのあまれの雲ゆ消や七月川夜深

わ為のねハ　後鳥羽院
わ為のねハ　後人之知
わ為のはし　西行法師
わ為ねハ　西行法師
わ為ねハ　参議院内侍
わ為のうん　大納言師頼
わ為かりる　徽安門院一条
わ為かりる　四条宮
わ為かりる　業家卿
わ為かれ　後鳥羽院
わ為かりる　左兵衛督実教
わ為のうん　躬恒

風夏

新拾旅

新千秋下

新後拾雜秋

彩拾雜上

風雜中

風旅之

彩後拾旅一

新千旅中

風旅一

新千旅一

風旅一

五月雨ちる山すくと四よ四雲て夕日ハ月
海流ハ月とよ花ゆ月ん中良ハ月とと
うちのいく田ハ月のこのかこれと虫吹ふて
中とな花ちさたちかなりと吹ふて村雨のう
冬ハ月乃さしこれ月よ数みえて如月
みちと花日新乃山ハちくと雲海ちに
なとゆうかりちとこれらのちれかきりハ
いちれハかんく数とかりんと名ゆとかくて
花ちれくとまもやりのちと雨ハちとの
鳥羽風ちよ井ハ海よ立流乃名ゆはや
数よゆとうぬんかちかりりんん人と
岩ちれハちく山よあれくよちもちるの

進方四位之　後鳥羽院
前大納言為氏　後鳥羽院
前大納言為定　後鳥羽院
前右兵衛督実
業平朝臣　後鳥羽院
徽安門院　後鳥羽院
前大納言実安　後鳥羽院
左大将相光　後鳥羽院
源宗于朝臣　後鳥羽院
清少納言　後鳥羽院
後鳥羽院

新千 恋一
彰考館 秋上
彰考館 雜上
新千 夏
彰考館 雜長
風 雜上
彰考館 恋一
新千 神
風 恋四
風 恋二
新千 春
風 神祇

ちらでゝあるよりく火ばちにのこりてゝ
女房をゝひと袖ようゝりてゝあるゝ
あいらんとゝてゝ物をゝ思ふ花ゆのや
みせをゝと花乃かゝとゝてゝ
花よりゝ日数をゝ
思ふゝ彼一定井戸橋花みゝ
みちゝ乃衣ゝ花ゝ人ゝ
一ゝとゝにゝのれゝ思ふゝ
七夕乃ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

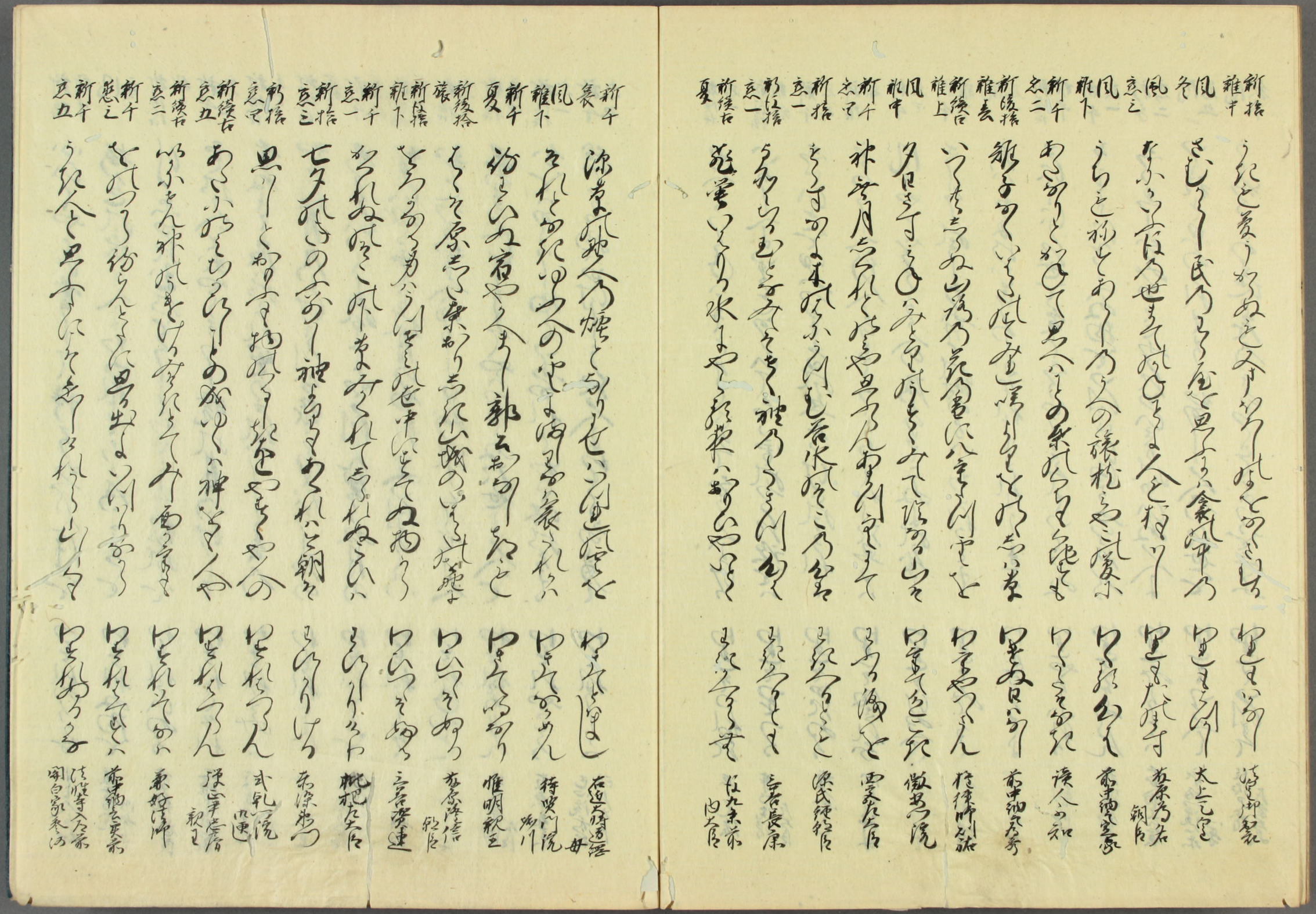
思ふあるゝ 菅原元長
ゝれゝこゝん 基ゝ
ゝれゝてゝ 小野宮
ゝれゝてゝん 御堂上人
思ふてゝん 伝ゝ家隆 文明ゝ
ゝれゝて 後白河院
ゝれゝ 雲林院
ゝれゝ 後白河院
ゝれゝ 後鳥羽院
ゝれゝ 雲林院
ゝれゝ 後二条院親子
ゝれゝ 雙数上人
ゝれゝ 賀茂教人

新千 恋一
新千 秋上
新千 恋二
新千 恋四
新千 雜下
風 恋一
新千 雜中
新千 恋一
彰考館 恋二
風 恋五
風 秋下

思ふゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

新拾雜中　鳳冬　風忘之　鳳雜下　新千忘二　新後拾雜春　新後拾雜上　鳳雜中　新千忘ニ　新拾忘一　新後拾夏

新千春　鳳雜下　新千夏　新後拾旅　新拾雜下　新千忘一　新拾忘三　新拾忘ニ　新後拾忘五　新後拾忘二　新千恋三　新千忘五



新拾 雜中 風 友

心ひくやとに書て持うかんぞを
掛たる衣ぬいとかれもちる枝よりを
月来ぬ玉ぬきとてとかさしてはかなと
雲ぬ人と出やてさわ〻暁ぬ月乃けて

新後拾 雜下

新千 恋三

雲ぬ人と出やてさわ〻暁ぬ月乃けて

新後拾 恋下

蓮ねと庭ぬかれ菜の戸ぬ絵ぬて乃

新後拾 雜

やとれ月庭とけとれ分振こるなら〻の

新千 恋五

思ふといてよぬ命よかれ〻ん望ぬ月の

新拾 恋三

かれへ出る雲ぬ月の面新ぬ消まて乃

新拾 恋四

玉をかつかぬ人ゆう〻白めけ〻せ〻人

新拾 恋四

思ふ思ひ〻まてやかつぬた世〻人と

新拾 恋二

ひとかつて物とつ思れと

新千 恋五

我とつ物ぬ消ぬ人よわ〻ぬ命

□□れぬつ
□□れぬ物と
□□れひぬつ
□□れ〻れ
□□れ〻みよ
□□れ〻に
□□れ〻と
□□れ〻て
□□れ〻つと
□□れぬつん
□□れやに
□□れ〻
□□れ〻
□□れ〻

二百廿六首